

IBM

@server

iSeries

0588、0595、5088、5094、5095 または 5294
拡張タワー セットアップ

バージョン 5 リリース 3

SA88-4001-02
(英文原典：SA41-5017-02)





@server

iSeries

**0588、0595、5088、5094、5095 または 5294
拡張タワー セットアップ**

バージョン 5 リリース 3

SA88-4001-02

(英文原典：SA41-5017-02)

お願い

本書の情報および本書に記載されている製品をご使用になる前に、v ページの『安全上および環境上の注意事項』および 53 ページの『特記事項』を必ずお読みください。

本書は、SA88-4001-01 の改訂版です。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SA41-5017-02
iSeries
Setting Up Your
0588, 0595, 5088, 5094, 5095 or 5294
Expansion Unit
Version 5 Release 3

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2002, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

安全上および環境上の注意事項	v
データ保全性および検証	v
危険の注記	v
注意の注記	vi
レーザーに関する安全上の注意	vi
製品のリサイクルと廃棄	vii
バッテリー返却プログラム	vii
環境を考慮した設計	vii

0588、0595、5088、5094、5095 または 5294 拡張タワーのセットアップについて (SA88-4001)

本書の対象読者	ix
前提条件と関連情報	ix

第 1 章 拡張タワーをセットアップするための準備

ハードウェア要件	1
HSL ケーブルおよび SPCN ケーブルの識別	1
ケーブルの配置計画	2
HSL ループの例	3
予備リンク	4
システム装置のケーブル・オプション	5
拡張タワーのケーブル・オプション	6
構成規則	6
最大 HSL ループ	6
HSL ループのアドレッシング	7
iSeries システム装置の電源遮断	8
HSL イネーブラーの取り付け	8

第 2 章 拡張タワーのセットアップ

HSL ケーブルによる装置の接続	13
HSL 接続の例	14
SPCN ケーブルによる装置の接続	16
SPCN 接続の例	17

第 3 章 インストールの完了

第 4 章 新しい構成の検証

第 5 章 ラック内の 0595 拡張タワーのインストール

付録 A. 背面カバーの取り外しまたは開き方

270、800、810、820、および 5075 の背面カバー	31
825 の背面カバー	32
830、5074、5094、5095 の背面カバー	33
840、5079 および 5294 の背面カバー	34
870 および 890 の背面カバー	35
ラック内の装置へのアクセス	36

付録 B. コネクタの位置

270、800、および 810 HSL コネクタの位置	38
820 の HSL コネクタの位置	39
825 の HSL コネクタの位置	40
830 の HSL コネクタの位置	41
840 の HSL コネクタの位置	42
870 および 890 の HSL コネクタの位置	43
5079 のコネクタの位置	44
5074 のコネクタの位置	45
5075 のコネクタの位置	46
5078 および 0578 のコネクタの位置	46
5088 および 0588 のコネクタの位置	47
5094 のコネクタの位置	47
5095 および 0595 のコネクタの位置	48
5294 のコネクタの位置	49
8079 のコネクタの位置	49
8093 のコネクタの位置	49
8094 のコネクタの位置	50
9094 のコネクタの位置	50

付録 C. システム装置のコントロール・パネル

特記事項

商標	54
電波障害に関する特記事項	55
情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI)	
表示	55

安全上および環境上の注意事項

データ保全本性および検証

IBM® コンピューター・システムには、データの破損や消失を見逃さないように設計したメカニズムが内蔵されています。ただし、この危険を完全に除去することはできません。計画外の停止、システム障害、電源の変動や停止、またはコンポーネントが故障したような場合、停止や障害の発生時かその近辺に行われた操作が正確であったか、あるいは保管または伝送されたデータが正確であったかを検証してください。さらに、機密度や重要度の高い操作ではそのようなデータに依存する前に、独立したデータ検証ができるような手順を確立しておいてください。定期的に IBM サポートの **Web** サイトをチェックして、システムや関連するソフトウェアに適用される更新済みの情報や修正がないか調べてください。

危険の注記

「危険」の注記は、この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が致命的あるいは非常な危険を被る可能性がある状況に注意を喚起するものです。

危険

誤配線のある電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されている装置の金属部分に危険な電圧を誘起させる原因になります。感電事故防止のため、電源コンセントの正しい配線とコンセントの接地端子を正しく接地する工事はユーザーの責任で行っていただきます。(RSFTD201)

危険

感電事故を防止するために、システムをインストールするときには、信号ケーブルの接続または切り離しの前にすべての装置の電源コード・プラグを電源コンセントから確実に抜いておいてください。(RSFTD202)

危険

装置をシステムに追加またはシステムから取り外すときには、感電事故が起きないように装置の電源コードのプラグを抜いてから信号ケーブルの接続または切り離しを行ってください。できれば、既存のシステムの電源コードをすべて抜いてから、装置の追加または取り外しを行ってください。(RSFTD203)

危険

感電事故防止のために、雷雨中に通信回線、ディスプレイ、プリンターまたは電話機などのケーブルや避雷器の接続および切り離し作業は行わないでください。(RSFTD003)

危険

電圧の異なる 2 つの物体の表面に触れたときに起こりうる感電事故を防止するために、できれば片手で信号ケーブルの接続または切り離しを行ってください。(RSFTD004)

注意の注記

「注意」の注記は、この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を被る可能性がある状況に注意を喚起するものです。

注意

電気通信に関する記述: この装置には、ac 電源コンセントとこの装置間に過電圧回路があります。これらの回路は、国際電気委員会 (IEC) 664、installation category II の規準に合致しています。IEC 664、installation category II の規準に合致する電源コンセントを用意するのはお客様の責任です。(RSFTC214)

レーザーに関する注記

すべてのレーザーは、クラス 1 レーザー製品に関する DHHS 21 CFR Subchapter J の要件に適合していることが米国で承認されています。米国以外では、IEC 825 (第 1 版 1984) に準拠していること、およびクラス 1 レーザー製品であることが認定されています。レーザー証明書番号と承認情報については、各製品のラベルを確認してください。

レーザーに関する安全上の注意

注意

本製品には、クラス 1 レーザー製品である CD-ROM が含まれる場合があります。(RSFTC240)

注意

IBM レーザー・モジュールはすべて、通常の操作中、ユーザーの保守中、または決められたサービス状態の間、作業者がクラス 1 レベルを超えるレーザー放射を受けないように設計されています。データ処理環境では、クラス 1 の電力レベル以上で作動するレーザー・モジュールをもつシステム・リンク上で送受信を行う機器が含まれる場合があります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの端をのぞいたり、コンセントを開けたりすることは、決して行なわないでください。光ファイバー・ケーブルの組み立てやコンセントの検査または修理は、専門のサービス技術員のみが行ってください。(RSFTC243)

製品のリサイクルと廃棄

本システムの構成部品のうち、構造部品や回路ボードなどはリサイクル施設があればリサイクル可能です。現在 IBM では、下取りする製品以外、IBM 機器を顧客から回収し、リサイクルすることはしておりません。電子機器の分解、再利用、リサイクル、または廃棄は、業者に委託することができます。詳細については IBM 営業担当員にお問い合わせください。

本システム装置には、鉛のはんだを含んだバッテリーや回路ボードが内蔵されています。この装置を廃棄する場合には、これらのバッテリーと回路ボードを取り外し、関連法規に従って、廃棄するかリサイクルしなければなりません。本書には、それぞれのバッテリー固有の情報が該当する個所に記載されています。

バッテリー返却プログラム

米国において、IBM は、使用済みのバッテリーとバッテリー・パックの再利用、リサイクル、および正しい処分のための収集プロセスを確立しました。当装置のバッテリーの正しい処分法については、IBM (1-800-426-4333) にお問い合わせください。連絡の際は、バッテリーの上に記載されている IBM 部品番号を調べておいてください。米国以外におけるバッテリーの廃棄については、その地域の産業廃棄処分施設にお問い合わせください。

環境を考慮した設計

製品や処理の品質改善の一環として IBM は環境を考慮したシステムの設計を行っています。その成果には、製造過程でのクラス I オゾン破壊物質の使用廃止、製造廃棄物の削減、製品のエネルギー効率の向上などがあります。詳細については IBM 営業担当員にお問い合わせください。

0588、0595、5088、5094、5095 または 5294 拡張タワーのセットアップについて (SA88-4001)

本書は、拡張タワーのセットアップに関するインストールについて説明します。新しい拡張タワーは、ユーザー自身でセットアップする方法もあります。ハードウェアのインストールにかかる時間は約 1 - 3 時間です。

拡張タワーのインストールをユーザー自身では行わず、依頼することもできます。その場合には、IBM または特約店に連絡して、有料でそれをインストールする手配をしてください。

本書の対象読者

ユーザーは、システム、ディスプレイ、およびキーボードに精通していなければなりません。システムの電源を遮断する方法とシステムの初期プログラム・ロードを実行する方法も知っておく必要があります。また、システム周辺装置 (プリンターや、モニター、PC など) の電源を遮断する方法も知っておく必要があります。

前提条件と関連情報

テクニカル情報を検索するための開始点として、iSeries Information Center をご使用ください。

Information Center にアクセスするには、次の 2 つの方法があります。

- 次の Web サイトからアクセスする。

<http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter>

- *iSeries V5R3 Information Center*, SK88-8055-03 CD-ROM からアクセスする。この CD-ROM は、お客様の新しい iSeries ハードウェアまたは IBM OS/400 ソフトウェアのアップグレードのご注文と一緒に出荷されます。この CD-ROM は、IBM 以下の URL から注文することができます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals>

iSeries Information Center には、新規または更新された iSeries 情報、例えば、ソフトウェアおよびハードウェアのインストール、Linux、WebSphere[®]、Java[™]、ハイ・アベイラビリティ、データベース、論理区画、CL コマンド、およびシステム・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API)、などが記載されています。さらに、ご使用の iSeries のハードウェアおよびソフトウェアの計画、トラブルシューティング、および構成を支援するためのアドバイザーとファインダーも提供されます。

新しくハードウェアを注文すると、*iSeries セットアップおよびオペレーション*, SK88-8058-02 が届きます。この CD-ROM には、IBM @server IBM e(logo)server iSeries Access for Windows および EZ セットアップ・ウィザードが収録されています。iSeries Access Family は、PC を iSeries[™] サーバーに接続するために強力な手助けをするクライアントおよびサーバー機能セットを提供します。「EZ-セットアップ (EZ-Setup)」ウィザードは、iSeries セットアップ・タスクを自動化します。

第 1 章 拡張タワーをセットアップするための準備

ラックに 0595 をインストールしますか?

- いいえ: この手順書に従って続けてください。
- はい: 23 ページの『第 5 章 ラック内の 0595 拡張タワーのインストール』へ進んでください。それから、ここに戻ってセットアップを続けてください。

本章では、拡張タワーをセットアップする前に行う必要がある事項について説明します。次のような作業があります。

1. 拡張タワーのアンパック (拡張タワーに付いているアンパックの手順書を参照)。
2. ケーブルの配置計画。
3. システム装置の電源遮断。クラスター内のすべてのシステム装置の電源遮断が必要です。

インストールのプロセスを開始する前に、新しい拡張タワーをどこにインストールするかを慎重に計画してください。大きさ、セキュリティー、および環境上の要因を含むいくつかの要因を考慮する必要があります。新しい拡張タワーをセットアップする前に、次の *iSeries Information Center Web* サイトを参照してください。

<http://www.ibm.com/eserver/iseriesseries/infocenter>

このサイトで「ハードウェアおよびソフトウェアの計画」を選択します。

ハードウェア要件

システム装置に直接新しい拡張タワーをインストールしようとしている場合には、以下の規則を覚えてください。

- 使用可能か、未使用の高速リンク (HSL) コネクターを用意する必要があります。
- 未使用か、使用可能なシステム電源制御ネットワーク (SPCN) コネクターを用意する必要があります。

HSL ケーブルおよび SPCN ケーブルの識別

高速リンク (HSL) ケーブルおよびシステム電源制御ネットワーク (SPCN) ケーブルを識別するには、次の表を使用してください。システムは、HSL ケーブルを使用して、拡張タワーと通信します。システムは、SPCN ケーブルを使用して、拡張タワーへの電源を制御します。

下記にリストする HSL ケーブルまたは SPCN ケーブルを、必要に応じて用意してください。

表 1. HSL ケーブル

フィーチャー番号	CCIN 番号	ケーブル・タイプ	長さ	部品番号
1460 (銅製)	0343	HSL	3 m	44L0005
1461 (銅製)	0361	HSL	6 m	97H7490
1462 (銅製)	0368	HSL	15 m	97H7491
1470 (光ファイバー)	1470	光ディスク	6 m	21P5014
1471 (光ファイバー)	1471	光ディスク	30 m	21P5015
1472 (光ファイバー)	1472	光ディスク	100 m	21P5016

表 1. HSL ケーブル (続き)

フィーチャー番号	CCIN 番号	ケーブル・タイプ	長さ	部品番号
1473 (光ファイバー)	1473	光ディスク	250 m	21P6326
1474 (銅製)	1474	HSL to HSL-2 ケーブル	6 m	21P5477
1475 (銅製)	1475	HSL to HSL-2 ケーブル	10 m	21P5458
1482 (銅製)	1482	HSL-2	3.5 m	53P2676
1483 (銅製)	1483	HSL-2	10 m	21P5456
1485 (銅製)	1485	HSL-2	15 m	21P5457

表 2. SPCN ケーブル

フィーチャー番号	CCIN 番号	長さ	部品番号
1463	9206	2 m	87G6235
1464	9219	6 m	21F9469
1465	9213	15 m	21F9358
1466	9214	30 m	21F9359
0369 (光ファイバー)	0369	100 m	21F9415
1468 (光ファイバー)	1468	250 m	21P6325

ケーブルの配置計画

ケーブルをどのように取り付けるかを決定するには、ユーザーの設置計画に従うとともに以下の事項に留意してください。

- 次の Web サイトを参照し、

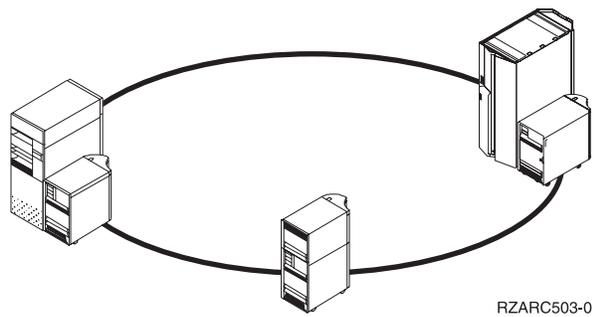
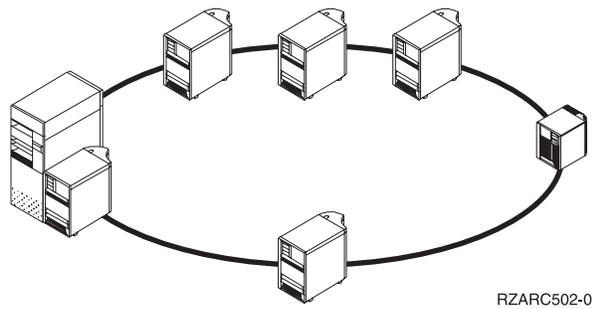
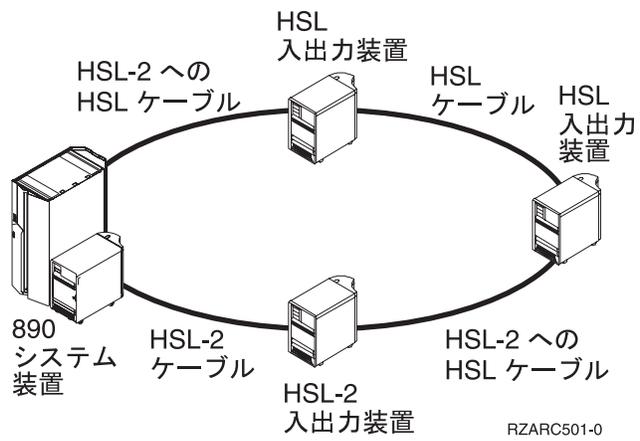
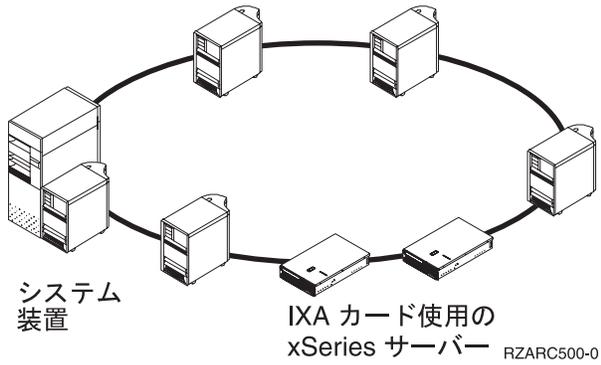
<http://www.ibm.com/eserver/iserier/infocenter>

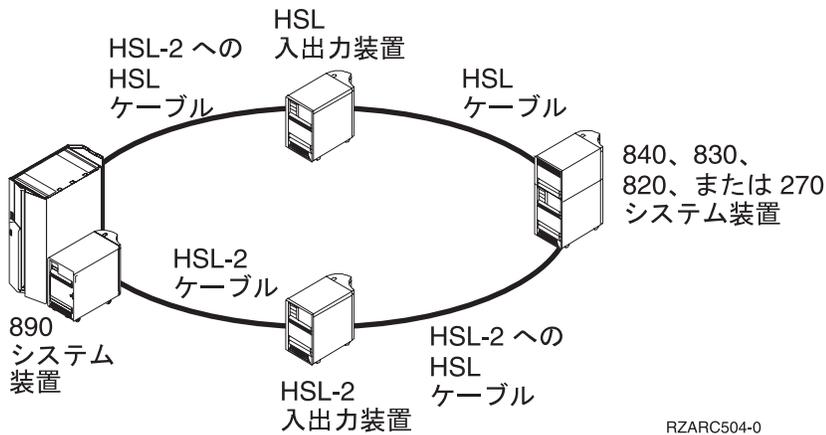
このサイトで、「ハードウェアのインストールおよび使用」→「ケーブル接続に関する考慮事項」を選択します。

- 5 ページの『システム装置のケーブル・オプション』、6 ページの『拡張タワーのケーブル・オプション』および 6 ページの『最大 HSL ループ』で参照することもできます。
- 安全上の問題が発生しないようにすること。
- ケーブルを損傷しないようにすること。
- ケーブルを高電圧線に平行に取り付けないようにすること。

HSL ループの例

次の図では、HSL ループのさまざまな例が示されています。





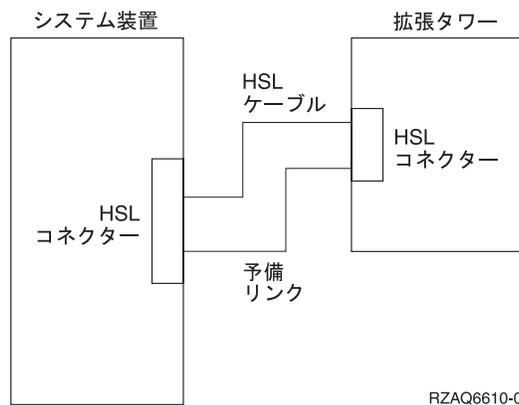
RZARC504-0

予備リンク

予備リンクとは、基本リンクで何らかの障害が起こった場合にシステムが使用する 2 次的な HSL 接続のことです。拡張タワーとシステム装置との間に予備 HSL ケーブル・リンクを接続することにより、予備リンク構成を作成します。

新しい拡張タワーはディスク装置を持っています。リンクが障害を起こした場合にディスク装置に継続してアクセスができるように、ケーブル配置に予備リンクを計画する必要があります。

1 台の拡張タワーで 1 つの予備リンク構成を持つようにケーブルを計画する方法については、図 1 を参照してください。2 台の拡張タワーをリンクさせようとしている場合は、5 ページの図 2 を参照してください。拡張タワーを積み重ねてセットアップする場合は、5 ページの図 3 を参照してください。



RZAQ6610-0

図 1. 1 台の拡張タワーの場合の予備リンクの計画

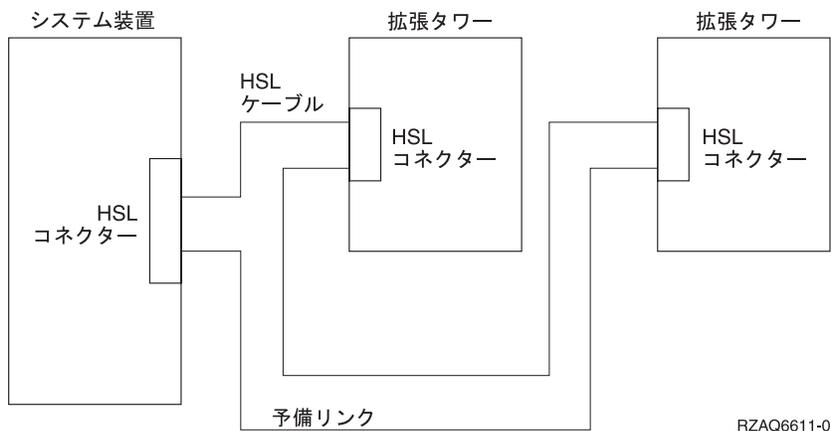


図 2. 2 台の拡張タワーの場合の予備リンクの計画

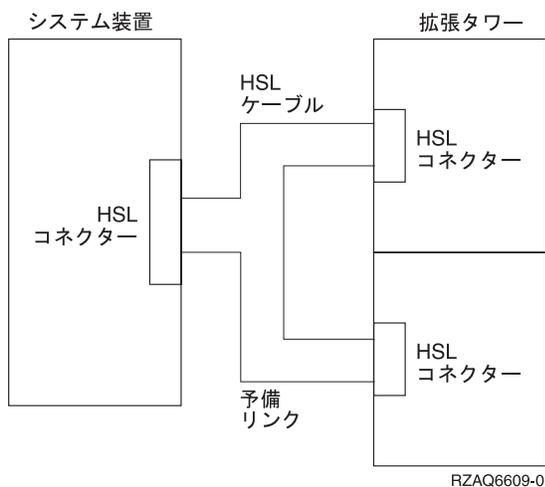


図 3. 積み重ねた拡張タワー (5079) の場合の予備リンクの計画

システム装置のケーブル・オプション

次の表を使用して、該当するシステム装置の HSL ケーブルを確認してください。

表 3. システム装置のケーブル・オプション

ケーブル・フィーチャー番号	270	800 または 810	820	825	830	840	870, 890
1460 (銅製)	x	x	x		x	x	
1461 (銅製)	x	x	x		x	x	
1462 (銅製)			x ¹		x	x	
1470 (光ファイバー)				x	x	x	x
1471 (光ファイバー)				x	x	x	x
1472 (光ファイバー)				x	x	x	x
1473 (光ファイバー)				x	x	x	x
1474 (銅製)	x	x	x	x	x	x	x

表3. システム装置のケーブル・オプション (続き)

ケーブル・フィーチャー番号	270	800 または 810	820	825	830	840	870, 890
1475 (銅製)			x	x	x	x	x
1482 (銅製)				x			x
1483 (銅製)				x			x
1485 (銅製)				x			x

¹A0 コネクタのみ

拡張タワーのケーブル・オプション

次の表を使用して、該当する拡張タワーの HSL ケーブルを確認してください。

表4. 拡張タワーのケーブル・オプション

ケーブル・フィーチャー番号	5074	5075	5078, 0578	5079, 8079	IXA カード	5088, 0588	5094, 0694, 9094	5095, 0595	5294, 8093, 8094
1460 (銅製)	x	x	x	x	x				
1461 (銅製)	x	x	x	x	x				
1462 (銅製)	x	x	x	x	x				
1470 (光ファイバー)	x		x	x		x	x	x	x
1471 (光ファイバー)	x		x	x		x	x	x	x
1472 (光ファイバー)	x		x	x		x	x	x	x
1473 (光ファイバー)	x		x	x		x	x	x	x
1474 (銅製)	x	x	x	x	x	x	x	x	x
1475 (銅製)	x	x	x	x	x	x	x	x	x
1482 (銅製)						x	x	x	x
1483 (銅製)						x	x	x	x
1485 (銅製)						x	x	x	x

構成規則

拡張タワーをセットアップする際は、これらの規則を順守してください。

最大 HSL ループ

以下の表を用いて、使用できる最大のループを判別してください。

表5. 最大システム・ループ

HSL ループの最大値	270	800	810	820	825	830	840	870	890
入出力装置	1	1	4	5	18	13	23	47	47
光ファイバー・ループ	0	0	0	0	2	1	2	6	12
HSL ループ	1	1	1	1	3	4	8	8	14
xSeries® での IXA カード	2	3	7	8	18	16	32	60	60
入出力装置および IXA カード	3	4	8	9	27	21	39	60	60

表 5. 最大システム・ループ (続き)

HSL ループの最大値	270	800	810	820	825	830	840	870	890
HSL Opticonnect ループ	1	1	1	1	2	2	4	8	14
HSL 移行装置	0	0	0	1	0	1	1	0	0

表 6. 最大 HSL ループ

HSL ループの最大値	270	800	810	820	825	830	840	870	890
入出力装置	1	1	4	5	6	6	6	6	6
IXA カード	2	3	7	8	8	8	8	8	8
入出力装置および IXA カード	3	4	8	9	9	9	9	9	9

表 7. 2 つのシステムの場合の 最大 HSL Opticonnect ループ

2 つのシステムの場合の HSL Opticonnect ループ	270	800	810	820	825	830	840	870	890
入出力装置および IXA カード	4	4	4	4	4	4	4	4	4

3 つのシステムの場合のループに加わるシステムはすべて、V5R2 またはそれ以降のものでなければなりません。830、840、870 および 890 モデルは、3 つのシステム HSL OptiConnect ループをサポートします。

表 8. 3 つのシステムでの最大 HSL Opticonnect ループ

3 つのシステムでの HSL Opticonnect ループ	270	800	810	820	825	830	840	870	890
入出力装置および IXA カード	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	0	0	0	0

HSL ループのアドレッシング

表 9. HSL ループのアドレッシング

アドレッシング	270	800 または 810	820	825	830	840	870	890
HSL ループ	A	A	A	A	A,B, C,D	A,B, C,D, E,F, G,H	M41 C,D M40 A,B M30 C,D M39 A,B	M41 C,D M40 A,B,C,D M30 A,B,C,D M39 A,B,C,D
光ファイバー HSL ループ	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	D	D E	M40 A,B M30 C,D M39 A,B	M40 A,B,C,D M30 AB,C,D M39 A,B,C,D
HSL Opticonnect ループ	A	A	A	A	B C または D	B C または D E または F G または H	M41 C,D M40 A,B M30 C,D M39 A,B	M41 A, B M40 A,B,C,D M30 A,B,C,D M39 A,B,C,D

iSeries システム装置の電源遮断

新しい拡張タワーをシステム装置に接続する前に、そのシステム装置を電源遮断する必要があります。クラスター内のすべてのシステム装置の電源遮断が必要です。以下の手順でシステム装置を電源遮断します。

- __ 1. ご使用のオペレーティング・システムおよびライセンス・プログラムの最新のバックアップがあることを確認してください。そのオペレーティング・システムとライセンス・プログラムのバックアップが、最後にプログラム一時修正 (PTF) を適用した後で行われたものであれば、それを使用できます。
- __ 2. ご使用のシステム装置に論理区画をインストールしている場合は *iSeries Information Center* で「論理区画」の項を参照してください。 *iSeries Information Center* に、論理区画を持つシステムの電源遮断に関する指示が記載されています。
- __ 3. システムに IXA がある場合は、OS/400® のオプションを使用して遮断してください。
- __ 4. すべてのジョブが完了していることを確認します。
- __ 5. すべてのジョブが完了してから、コマンド行に `pwrdownsys *immed` と入力して、Enter キーを押します。

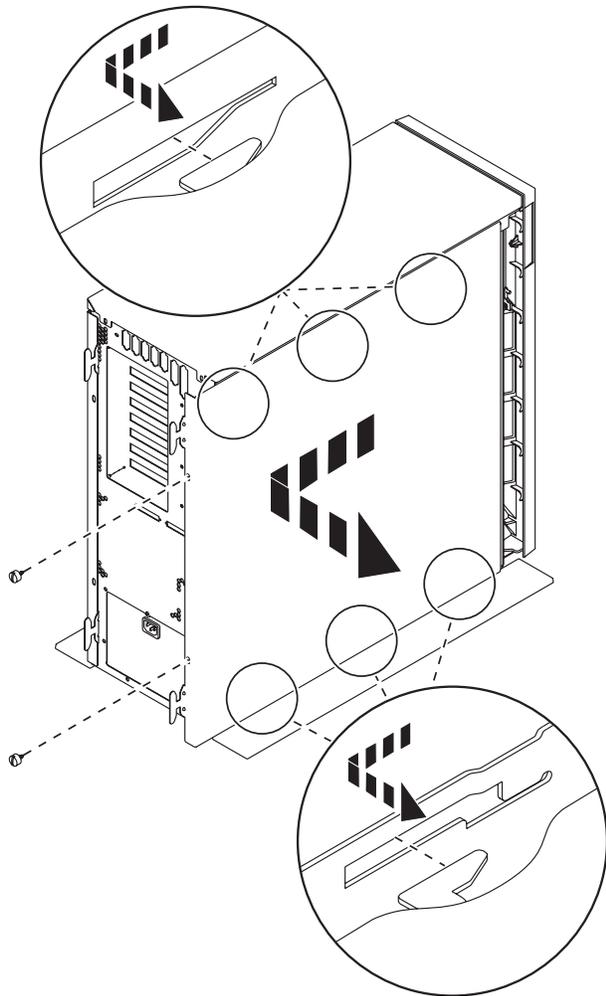
注: インストール中に問題が生じた場合は、特約店または、サービス提供者に連絡してください。

- __ 6. システム装置が完全に電源遮断された後で、システム装置に接続されているすべてのパーソナル・コンピューター (PC) および装置類 (プリンターやディスプレイ装置など) の電源をオフにします。
- __ 7. システム装置に接続されているすべての電源コード (プリンター、拡張タワー、およびディスプレイ装置などの電源コード) を抜きます。
- __ 8. システム装置のすべての電源コードをコンセントから抜きます。
- __ 9. HSL イネーブラーを拡張タワーと一緒に受け取りましたか ?
 - __ いいえ: 13 ページの『第 2 章 拡張タワーのセットアップ』へ進んでください。
 - __ はい: 『HSL イネーブラーの取り付け』へ進んでください。

HSL イネーブラーの取り付け

システム装置に HSL イネーブラーが同梱されていた場合は、ご使用の装置をセットアップする前に、ケーブルを取り付けておく必要があります。HSL イネーブラーを取り付けるには、次の手順を行ってください。

- __ 1. 右側のカバーを取り外す (後ろから見て)
 - __ a. ねじを緩める。
 - __ b. カバーを前面から背面に、止まるまでスライドさせる。
 - __ c. カバーを引き出す。



RZAO3902-0

図4. システム装置の側面カバーの取り外し

システム装置には、訓練を受けた技術員だけが取り替えることができるバッテリーが入っています。

⚠ 注意

バッテリーはリチウム電池です。このバッテリーの交換は、訓練を受けたサービス技術員のみが、問題判別、修理、および保守マニュアルの指示に従って行ってください。爆発の危険を防止するために、バッテリーを焼却または充電してはなりません。IBM 指定の部品とだけ交換してください。バッテリーを廃棄するときには、関連法規を遵守してください。(RSFTC241)

- 2. 静電気の放電によって装置が損傷しないように、使い捨てのリスト・バンドを取り付ける。10 ページの図 5 は、リスト・バンドのフォイルの接着部分を塗装されていない表面に取り付ける場所の例です。

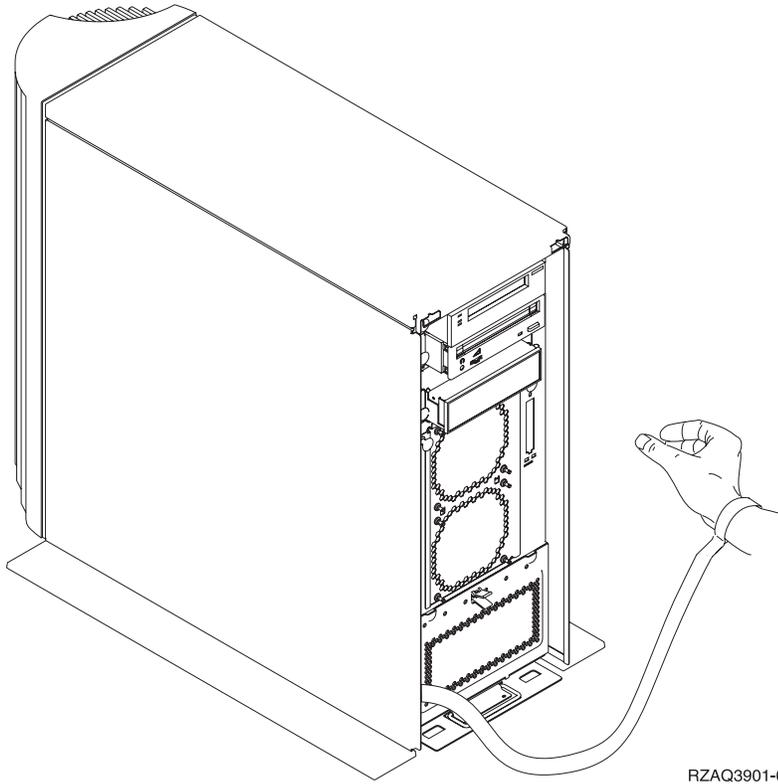
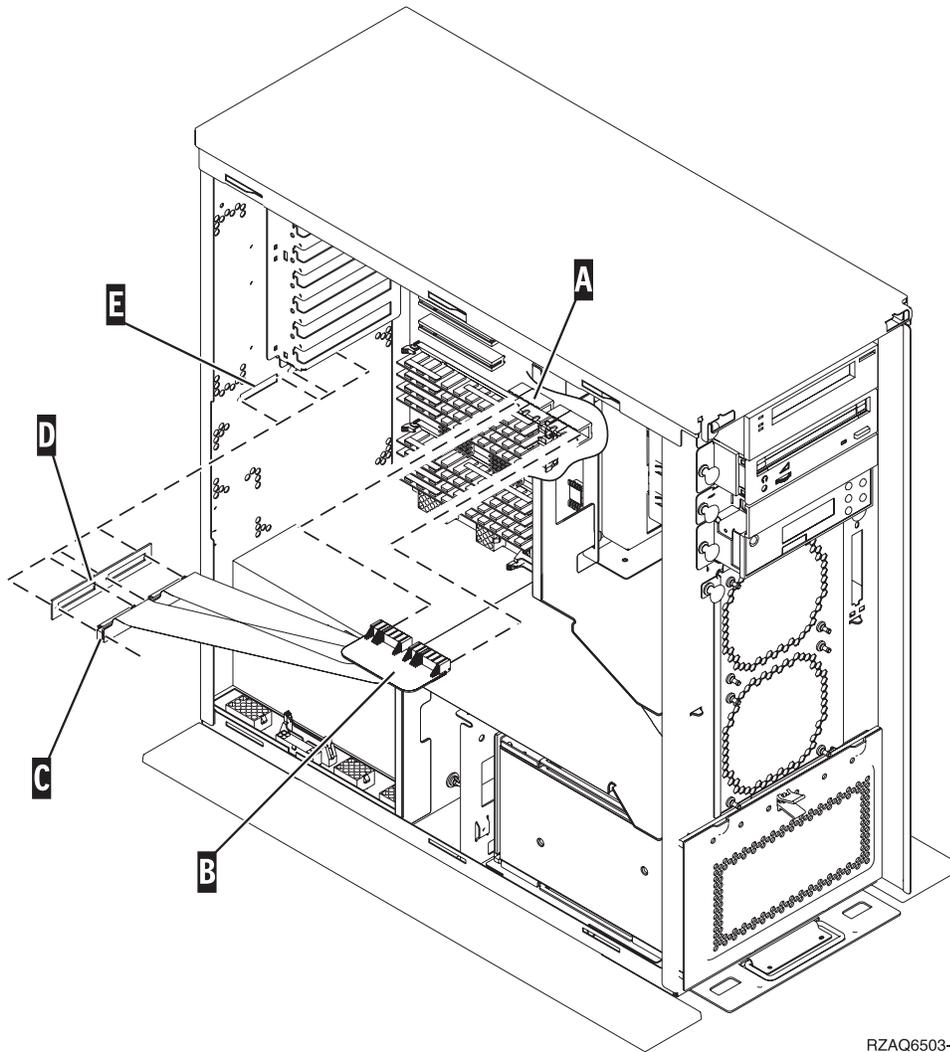


図5. リスト・バンドの取り付け

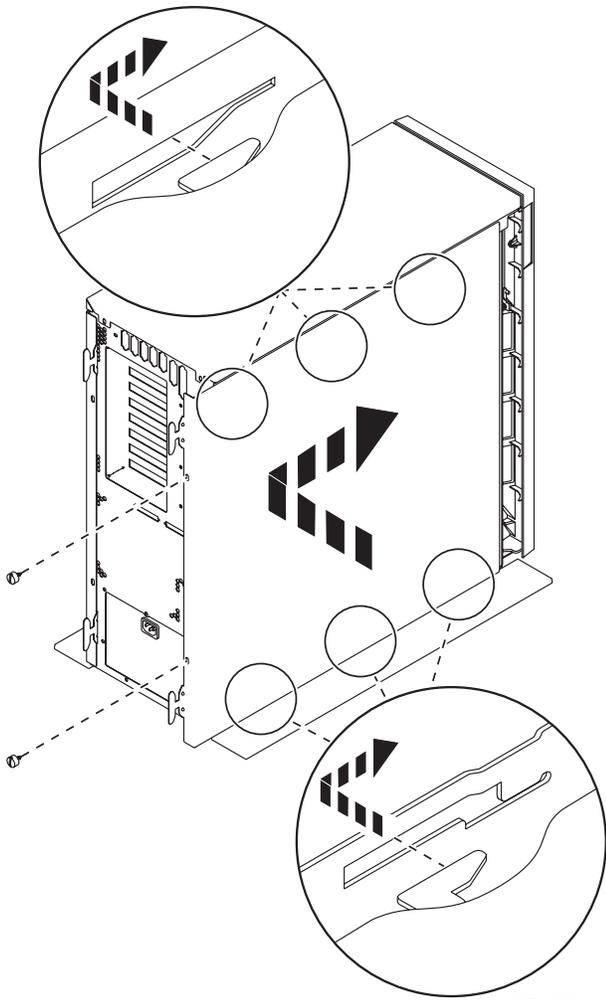
- __ 3. **E** (11 ページの図 6) にある HSL ケーブル・ポートを覆っているプレートを外す。
- __ 4. ガスケット **D** をコネクタ **C** の上に載せる。
- __ 5. コネクタ **C** を **E** にある HSL ケーブル・ポートに取り付ける。
- __ 6. 保留していたねじをコネクタ **B** に取り付ける。
- __ 7. コネクタ **B** を **A** のバックプレーンに差し込む。



RZAQ6503-0

図6. HSL イネーブラーの取り付け

- __ 8. リスト・バンドを外す。
- __ 9. **12 ページの図7** は、上面のエッジと下面のエッジにあるタブを位置合わせすることによって、システム装置の側面カバーを取り付ける方法を示しています。前方に押し、すべてのタブがスロットに入ることを確認してください。システムの装置の前面に向けてカバーを止まるまでスライドさせて、ネジを取り付けます。



RZAQ3910-0

図7. システム装置の側面カバーの取り付け

第 2 章 拡張タワーのセットアップ

ここでは、ご使用になる拡張タワーをセットアップする方法を説明します。

- __ 1. システム装置を電源遮断していない場合は、8 ページの『iSeries システム装置の電源遮断』へ進みません。システム装置を電源遮断したら、ここへ戻ります。
- __ 2. 背面カバーがある場合は、取り外すか、開きます。
拡張タワーまたはシステム装置上のカバーの取り外し、または開き方については、31 ページの『付録 A. 背面カバーの取り外しまたは開き方』を参照してください。
- __ 3. コネクタの位置を探してください。
5079 拡張タワーまたはシステム装置上のコネクタの位置については、37 ページの『付録 B. コネクタの位置』を参照してください。
- __ 4. システム装置に移行装置が付いている場合は、先に進む前に *iSeries Information Center* で「インストール、アップグレード、および移行」を参照してください。
- __ 5. 14 ページの『HSL 接続の例』および 17 ページの『SPCN 接続の例』を検討してから、『HSL ケーブルによる装置の接続』または 16 ページの『SPCN ケーブルによる装置の接続』を続行してください。

HSL ケーブルによる装置の接続

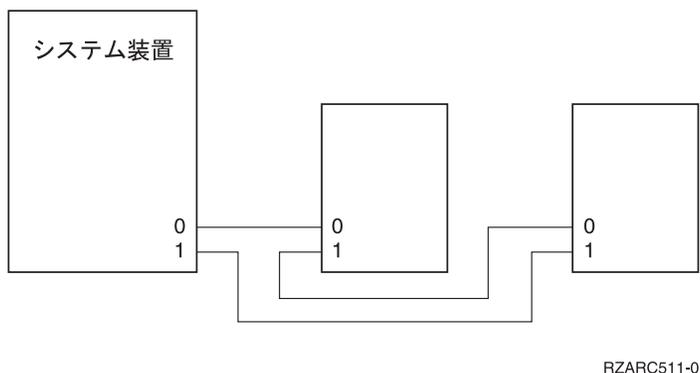
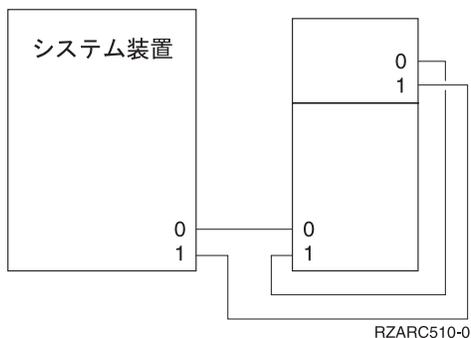
手順の実行中に問題が生じた場合は、特約店またはサービス提供者に連絡してください。

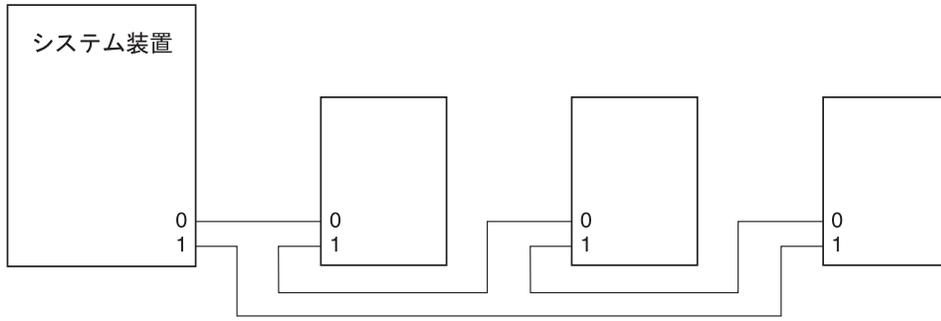
- __ 1. ご使用の装置上で使用可能な HSL コネクタを見つけます。37 ページの『付録 B. コネクタの位置』を参照してください。
- __ 2. システム装置上に HSL コネクタの組が 1 つしかない場合は、A0 および A1 というラベルが付けられます。
システム装置上に HSL コネクタの組が 2 つ以上ある場合、最初の組は、A0 および A1 というラベルが付けられます。残りの HSL コネクタは、アルファベット順にラベルが付けられます。例えば、モデル 830 の場合は、システム上に 4 組の HSL コネクタがあります。それらには、A0 と A1、B0 と B1、C0 と C1、D0 と D1 というラベルが付けられます。
7 ページの『HSL ループのアドレッシング』を参照してください。
- __ 3. どの組の HSL コネクタが使用可能であるか、ここに書き留めてください。 ____、 ____
- __ 4. ケーブルにラベルを付けて装置に接続します。
未使用の HSL コネクタは、金属クリップで覆われていることがあります。HSL ケーブルを取り付ける前に、クリップを取り外してください。
 - __ a. 拡張タワーとともに出荷された HSL ケーブルおよび電源ケーブルを探します。
 - __ b. HSL ケーブルのそれぞれの端にラベルを付けます。
 - __ c. 一方の HSL ケーブルの両端に 0 のラベルを付けます。
 - __ d. もう一方の HSL ケーブルの両端に 1 のラベルを付けます。
 - __ e. 1 台の拡張タワーに接続するときは、次のようにします。
 - __ 1) 0 のラベルが付いている HSL ケーブルを、該当の拡張タワー上の 0 のラベルが付いている HSL コネクタに接続します。

- __ 2) 拡張タワー上のラベル 1 の HSL コネクタに、ラベル 1 の HSL ケーブルを接続します。
- __ f. 2 台以上の拡張タワーを接続するときは、次のようにします。
 - __ 1) 一方の端に次の HSL ケーブル 0、他方の端に 1 のラベルを付ける。
 - __ 2) 0 のラベルが付いている HSL ケーブルを、拡張タワー上で 0 のラベルが付いている HSL コネクタに接続します。
 - __ 3) 1 のラベルが付いている HSL ケーブルを、拡張タワー上で 1 のラベルが付いている HSL コネクタに接続します。
 - __ 4) すべての拡張タワーが接続されるまで、上記のステップを繰り返します。
- __ 5. システム装置にある使用可能な HSL コネクタにケーブルを接続します。ステップ 3 (13 ページ) を参照してください。0 のラベルが付いている HSL ケーブルを 0 のラベルが付いている HSL コネクタに接続し、1 のラベルが付いている HSL ケーブルを 1 のラベルが付いている HSL コネクタに接続します。
- __ 6. 16 ページの『SPCN ケーブルによる装置の接続』から続けてください。

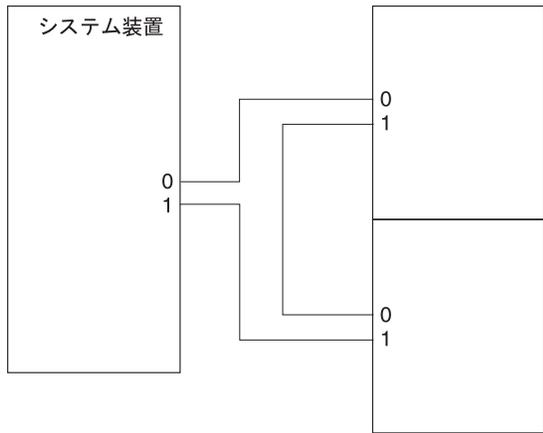
HSL 接続の例

次の図は、HSL 接続を示す例です。

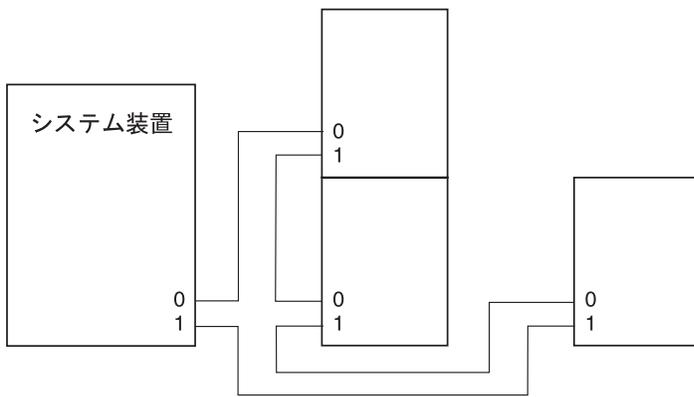




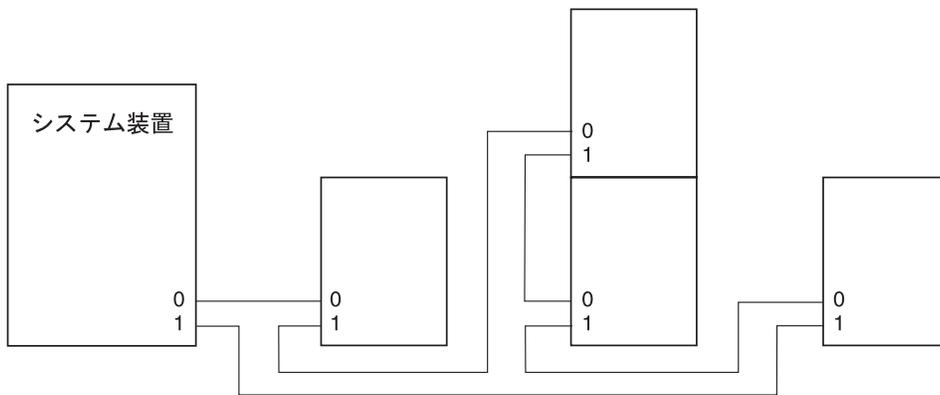
RZARC513-0



RZARC516-0



RZARC518-0



RZARC520-0

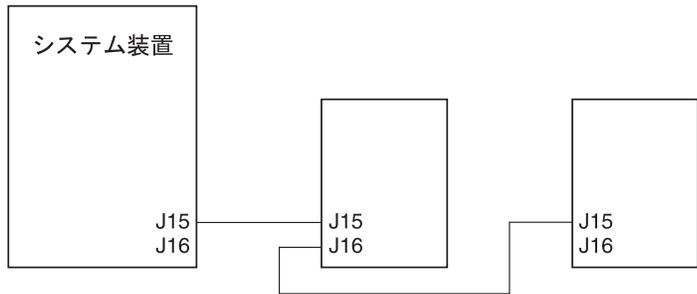
SPCN ケーブルによる装置の接続

手順の実行中に問題が生じた場合は、特約店またはサービス提供者に連絡してください。

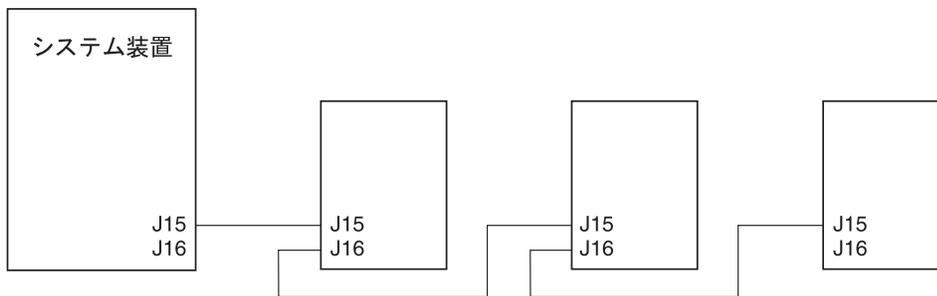
- __ 1. ご使用の装置上で使用可能なコネクタを見つけます。 37 ページの『付録 B. コネクタの位置』を参照してください。
- __ 2. ケーブルにラベルを付けて装置に接続します。
 - __ a. 拡張タワーと一緒に出荷された、SPCN ケーブルおよび電源ケーブルを探します。
 - __ b. ケーブルを該当のシステム装置上のコネクタ J15 に接続します。
 - __ c. ケーブルの他方の端を最初の拡張タワー上のコネクタ J15 に接続します。
 - __ d. 別のケーブルの端を最初の拡張タワーのコネクタ J16 に接続します。
 - __ e. ケーブルの他方の端を次の拡張タワー上のコネクタ J15 に接続します。
 - __ f. すべての拡張タワーが接続されるまで、上記のステップを繰り返します。
 - __ g. 電源ケーブルを接続します。プラグを壁のコンセントには差し込まないでください。
- __ 3. 背面カバーがある場合は、閉めるか、取り付けます。
- __ 4. 新しいサーバーにこの拡張タワーをインストールする場合は、『ケーブル接続の手順』に戻ってください。
- __ 5. 19 ページの『第 3 章 インストールの完了』から続けてください。

SPCN 接続の例

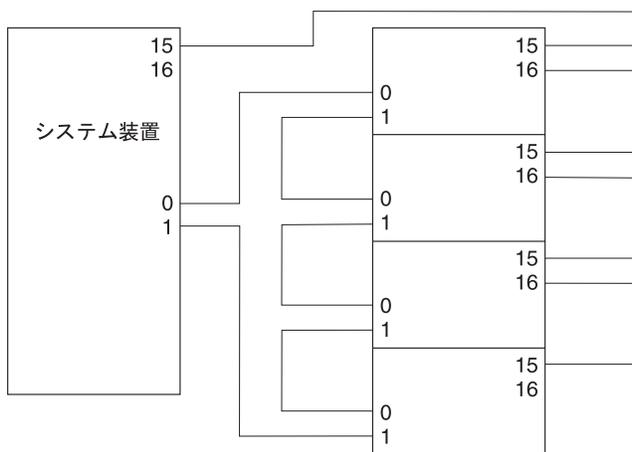
次の図は、SPCN 接続を示す例です。



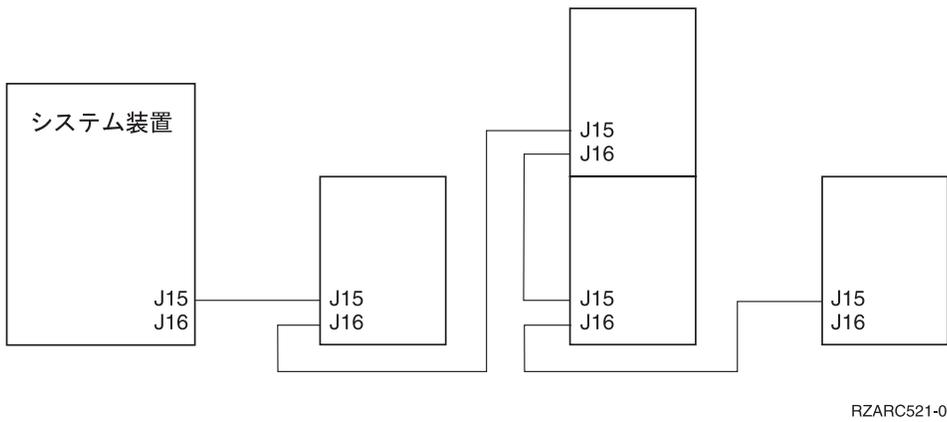
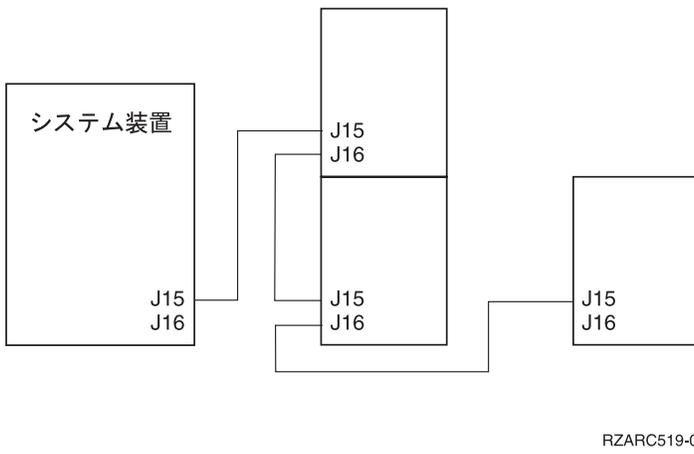
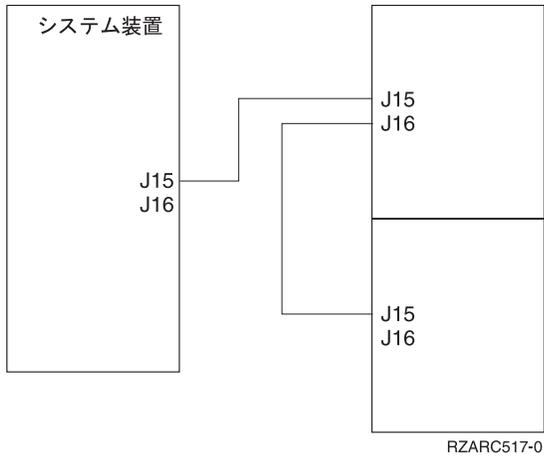
RZARC512-0



RZARC514-0



RZARC515-0



第 3 章 インストールの完了

以下の手順を行って、インストールの完了を確認してください。

- __ 1. 次のシステム・コンポーネントのカバーが、すべて取り付けられていることを確認してください。
 - __ a. システム装置
 - __ b. すべてのシステム拡張タワー

危険

誤配線のある電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されている装置の金属部分に危険な電圧を誘起させる原因になります。感電事故防止のため、電源コンセントの正しい配線とコンセントの接地端子を正しく接地する工事はユーザーの責任で行っていただきます。(RSFTD201)

注: システム装置の電源コードのプラグを差し込むと、ファンが始動し、システム参照コードが表示されます。これらのアクションは正常です。これらは、システム装置が初期プログラム・ロード (IPL) を実行していることを示してはなりません。

- __ 2. 次のシステム・コンポーネントの電源コードを、コンセントに差し込んでください。
 - __ a. システム装置
 - __ b. システムに接続されたすべての拡張タワー
 - __ c. システム装置コンソール
 - __ d. システム・プリンター
- __ 3. 次のシステム・コンポーネントをそれぞれ、関連する電源オン・ボタンを使用して電源オンにします。
 - __ a. システム・プリンター (ある場合)
 - __ b. システム制御コンソール
- __ 4. コントロール・パネルの「機能/データ」表示パネルを見ます。コントロール・パネルについての情報が必要な場合は、51 ページの『付録 C. システム装置のコントロール・パネル』を参照してください。
- __ 5. ご使用のシステム装置が、モデル 270、800、または 810 の場合は、ステップ 7 に進んでください。
- __ 6. ご使用のシステム装置が、モデル 820、825、830、840、870 または 890 の場合は、ステップ 8 (20 ページ) に進んでください。
- __ 7. 「機能/データ」表示パネルに **01 B V=S** が表示されましたか？
 - __ はい: ステップ 9 (20 ページ) に進んでください。
 - __ いいえ: 以下の手順を行ってください。
 - __ a. 「機能/データ」表示パネルに **02** が表示されるまで、「増分/減分」ボタンを押しません。
 - __ b. コントロール・パネルの「機能開始」プッシュボタンを押します。
 - __ c. 「機能/データ」表示パネルに **B** が表示されるまで、「増分/減分」ボタンを押します。

- __d. コントロール・パネルの「機能開始」プッシュボタンを押します。
- __e. 「機能/データ」表示パネルに **M** が表示されるまで、「増分/減分」ボタンを押します。
- __f. コントロール・パネルの「機能開始」プッシュボタンを押します。
- __g. 「機能/データ」表示パネルに **S** が表示されるまで、「増分/減分」ボタンを押します。
- __h. コントロール・パネルの「機能開始」プッシュボタンを押します。
- __i. 「機能/データ」表示パネルに **01** が表示されるまで、「増分/減分」ボタンを押します。
- __j. コントロール・パネルの「機能開始」プッシュボタンを押します。
「機能/データ」表示パネルに **01 B M S** が表示されるはずです。表示されない場合は、ステップ 7a (19 ページ) から 7j を繰り返します。
- __k. 9 に進んでください。

__ 8. 「機能/データ」表示パネルに **01 B V=S** が表示されましたか？

注: オペレーション・コンソールのリモート・コントロール・パネルを使用している場合は、「機能開始」をクリックして、IPL 速度の検証が必要な場合があります。

はい いいえ

↓ 以下の手順を行ってください。

- __a. 「手動」標識 (小さな手) がオンになるまで、「モード選択」ボタンを押します。
- __b. 「機能/データ」表示パネルに **02** が表示されるまで、「増分/減分」ボタンを押します。
- __c. コントロール・パネルの「機能開始」プッシュボタンを押します。
- __d. 「機能/データ」表示パネルに **B** が表示されるまで、「増分/減分」ボタンを押します。
- __e. コントロール・パネルの「機能開始」プッシュボタンを押します。
- __f. 「機能/データ」表示パネルに **S** が表示されるまで、「増分/減分」ボタンを押します。
- __g. 「通常」標識 (**OK**) がオンになるまで「モード選択」ボタンを押します。
- __h. 「機能/データ」表示パネルに **01** が表示されるまで、「増分/減分」ボタンを押します。
- __i. コントロール・パネルの「機能開始」プッシュボタンを押します。
「機能/データ」表示パネルに **01 B S** が表示されるはずです。表示されない場合は、8a から 8h のステップを繰り返します。
- __j. 9 に進んでください。

__ 9. 白い「電源」プッシュボタンを押し、システム装置に電源を入れます。

注: IPL が完了するまでにかかる時間は、ご使用のモデルや構成によって異なります。

- __ 10. システム装置にサインオンします。必ず保守ツール権限を持つようにしてください。
- __ 11. 21 ページの『第 4 章 新しい構成の検証』に進んでください。

第 4 章 新しい構成の検証

以下の手順を行って、新しい構成を検証します。

- __ 1. コマンド行で **strsst** と入力します。 Enter キーを押します。
- __ 2. 「保守ツールの開始 (SST) のサインオン」画面で、**保守ツールのユーザー ID** および**保守ツールのパスワード**を入力します。
Enter キーを押します。
- __ 3. 「システム保守ツール (SST)」画面で「**保守ツールの開始**」を選択します。
Enter キーを押します。
- __ 4. 「保守ツールの開始」画面で「**ハードウェア保守管理機能**」を選択します。
Enter キーを押します。
- __ 5. 「ハードウェア保守管理機能」画面で、「**パッケージ・ハードウェア資源 (システム、フレーム、カード...)**」を選択します。
Enter キーを押します。
新しい拡張タワーが、リストされます。フレーム ID と資源名をここに記録してください
:_____、_____。拡張タワーが表示されない場合は、インストールが正しく行われているかを、次のようにして検証する必要があります。
 - __ a. 拡張タワーが電源オンされているか確認します。
 - __ b. ケーブルを正しく取り付けられたか確認します。
- __ 6. 新しい拡張タワー用の重要プロダクト・データ (VPD) を更新する必要があります。
 - __ a. F3 を押して、「ハードウェア保守管理機能」画面に戻ります。
 - __ b. 「ハードウェア保守管理機能」画面で、「**システム電源制御ネットワーク(System Power Control Network)(SPCN)**」を選択します。
 - __ c. Enter キーを 2 回押します。

注:

- 1. 5294 をインストールした場合は、5294-002 と 5294-001 の両方のフレーム ID と製造番号を見つける必要があります。
- 2. フレーム ID は、拡張タワー上の表示内容を見て検索することもできます。例えば、5294-002 (上部装置) のフレーム ID が 4 の場合は、表示パネルに *04 と表示されます。
 - __ d. 拡張タワーに T ついて **3** (VPD の書き込み) を入力します。 Enter キーを押します。

例: ご使用の拡張タワーのフレーム ID が 2 の場合、下の例に示すようにオプション **3** を入力します。「装置」フィールドに **0** が指定されたフレーム ID を使用してください。

システム電源制御ネットワーク (SPCN)

バッテリー容量テスト : 活動化

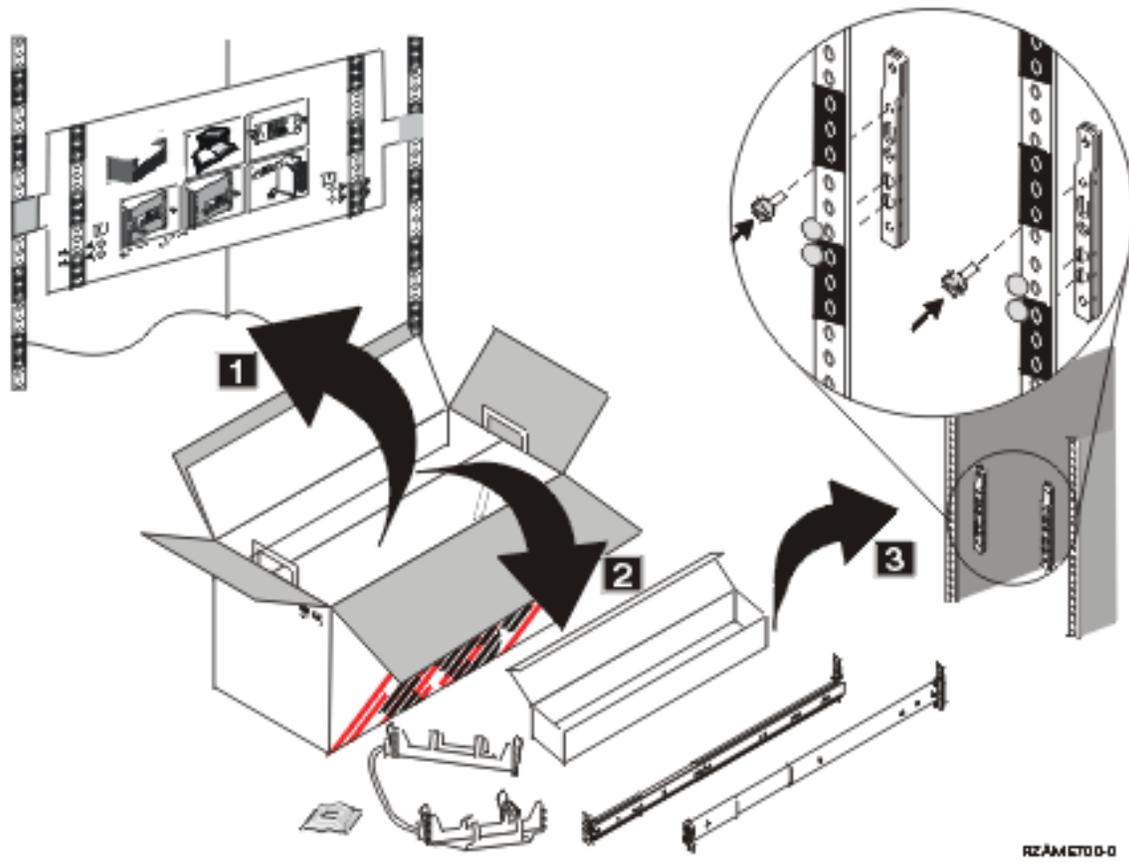
オプションを入力して、実行キーを押してください。

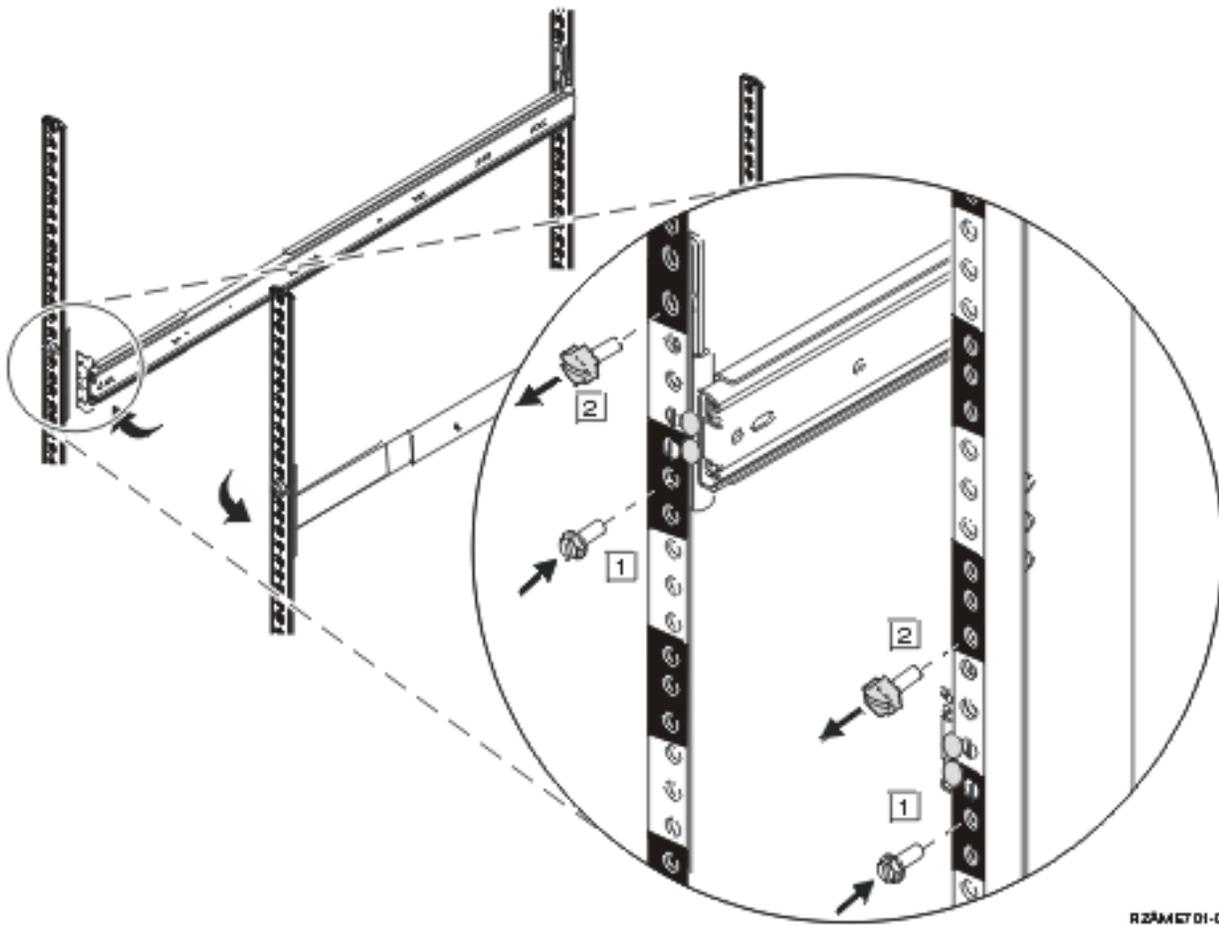
3= VPD の書き込み 5= 詳細の表示 6= 追跡ログの表示
7= バッテリー・インターフェースのテスト

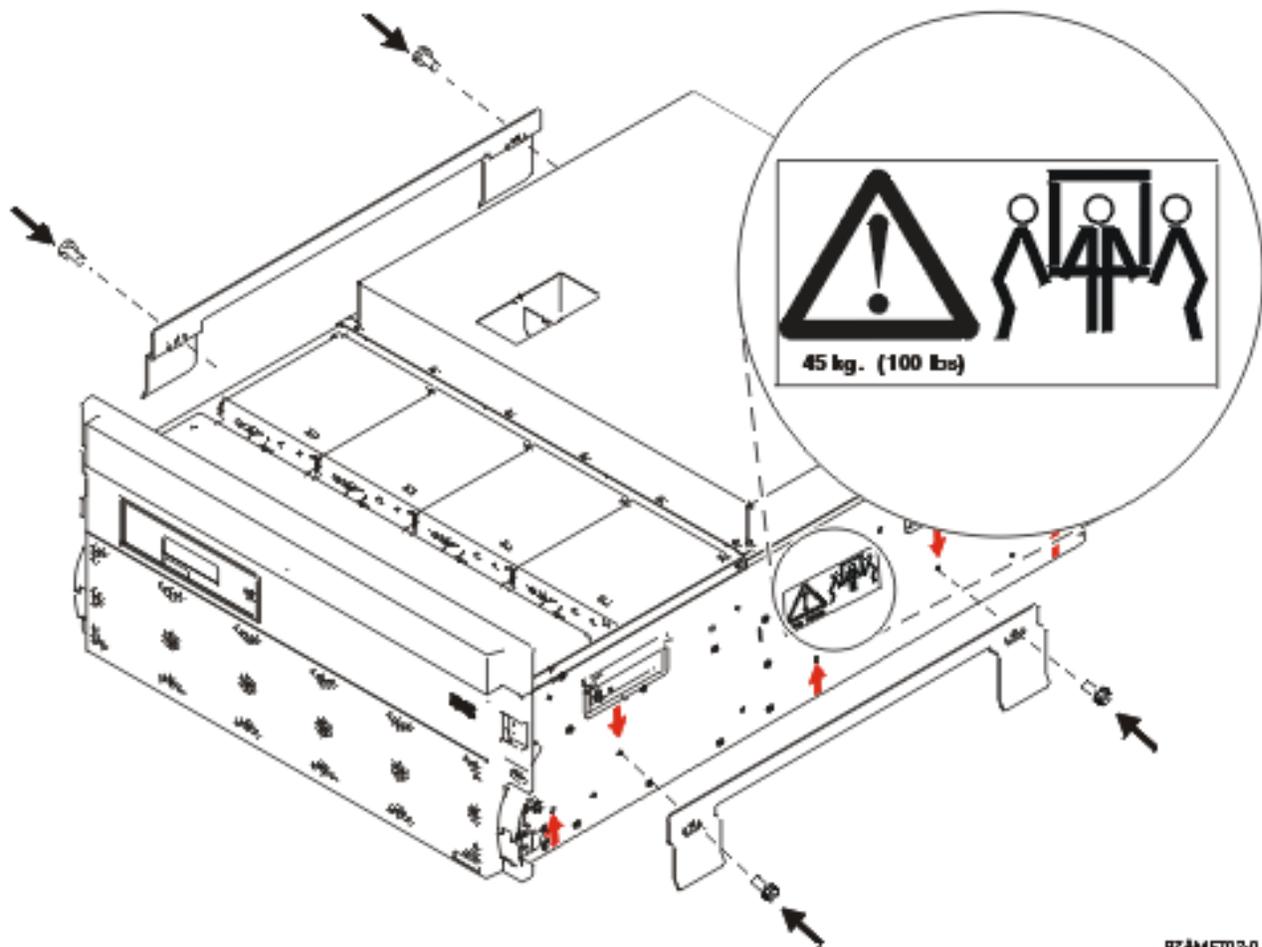
OPT	フレーム	装置	タイプ	製造 番号	障害
	01	0		00-00000	NO
	01	1		00-00000	NO
	03	0	00-00000	NO
	03	1	00-00000	NO
3	02	0	00-00000	NO
	02	1	00-00000	NO

- __ e. 「重要プロダクト・データ (VPD) の書き込み」画面で、次の情報を入力します。
 - __ 1) 「タイプ」フィールドに、 **0588**、**0595**、**5088**、**5094** または **5095** と入力します。
 - __ 2) 「型式」フィールドに **001** と入力します。 5294 を使用している場合以外は、5294-001 (下部装置) では **001** と入力し、5294-002 (上部装置) では **002** と入力します。
 - __ 3) 「製造番号」フィールドに製造番号 (拡張タワーのフレームに記載されています) を入力します。
- __ f. Enter キーを押します。
 - 「重要プロダクト・データが正常に書き込まれました」というメッセージが表示されます。
- __ 7. F3 を押して、「ハードウェア保守管理機能」画面に戻ります。
- __ 8. 「ハードウェア保守管理機能」画面から F6 (構成の印刷) を押して、構成リストを印刷します。
- __ 9. 今後参照するのに備えて、構成リストを本書にはさんでおきます。
- __ 10. メイン・メニューに戻るには、F3 (終了) を 2 回押してからEnter キーを押します。

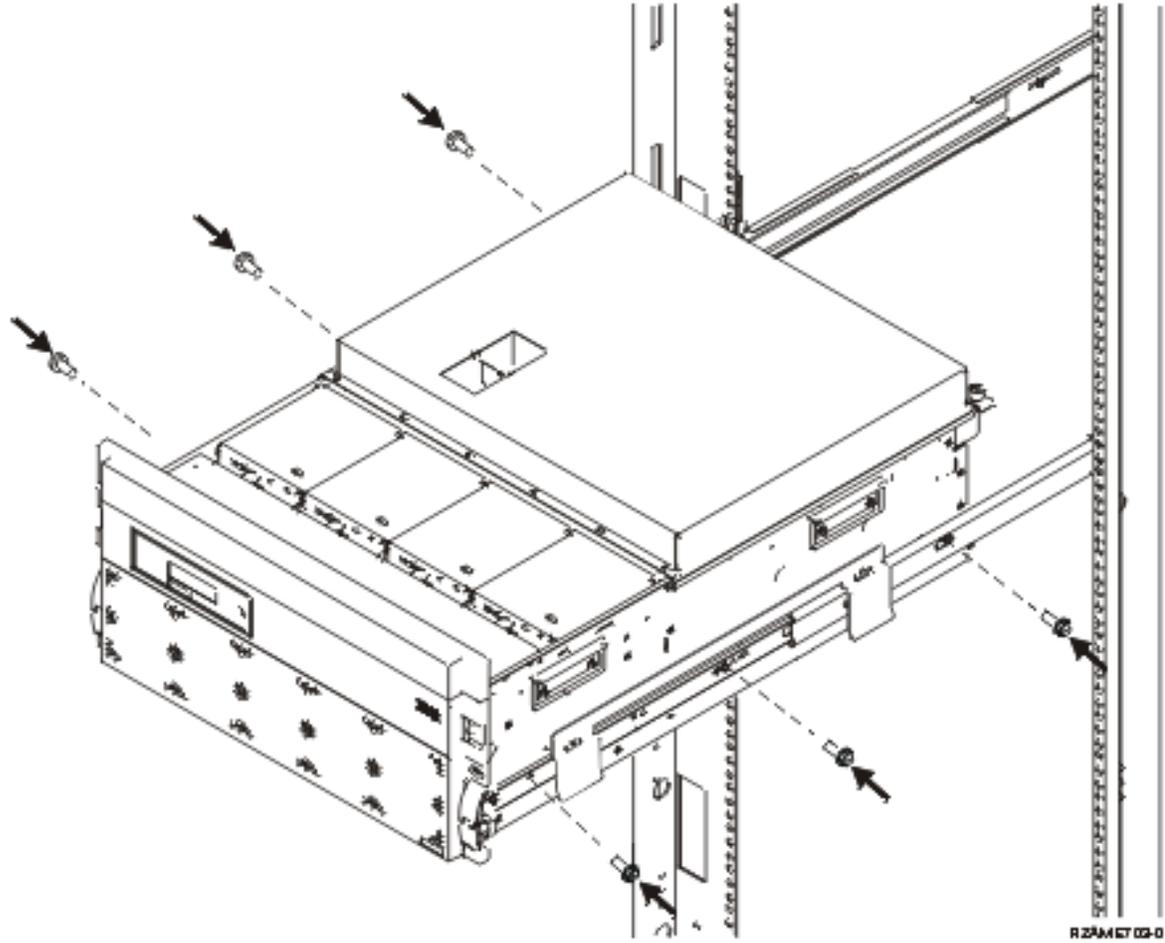
第 5 章 ラック内の 0595 拡張タワーのインストール

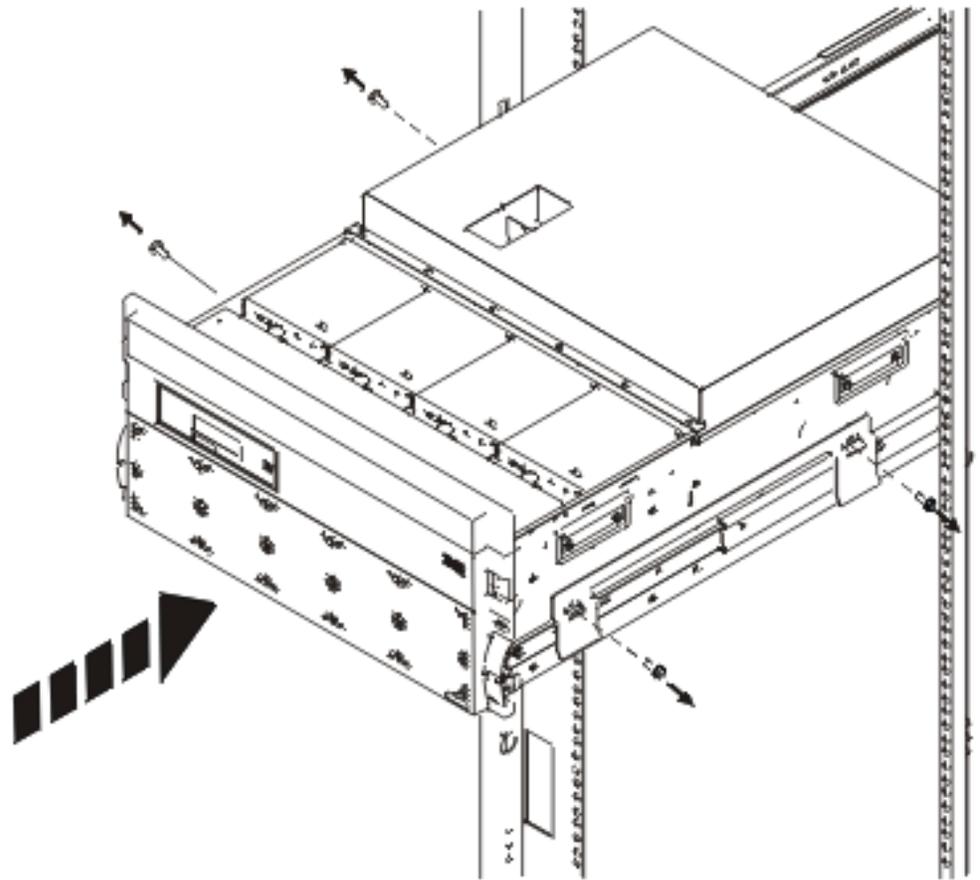




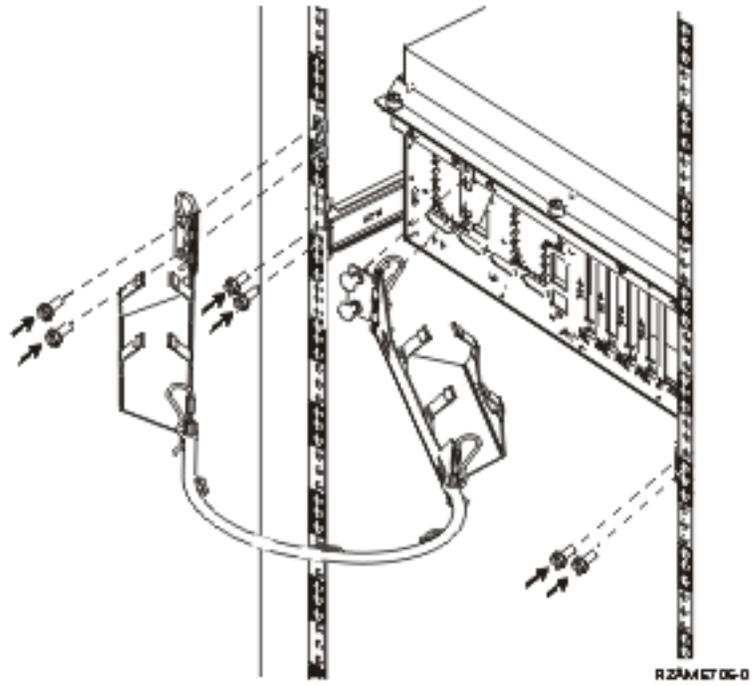


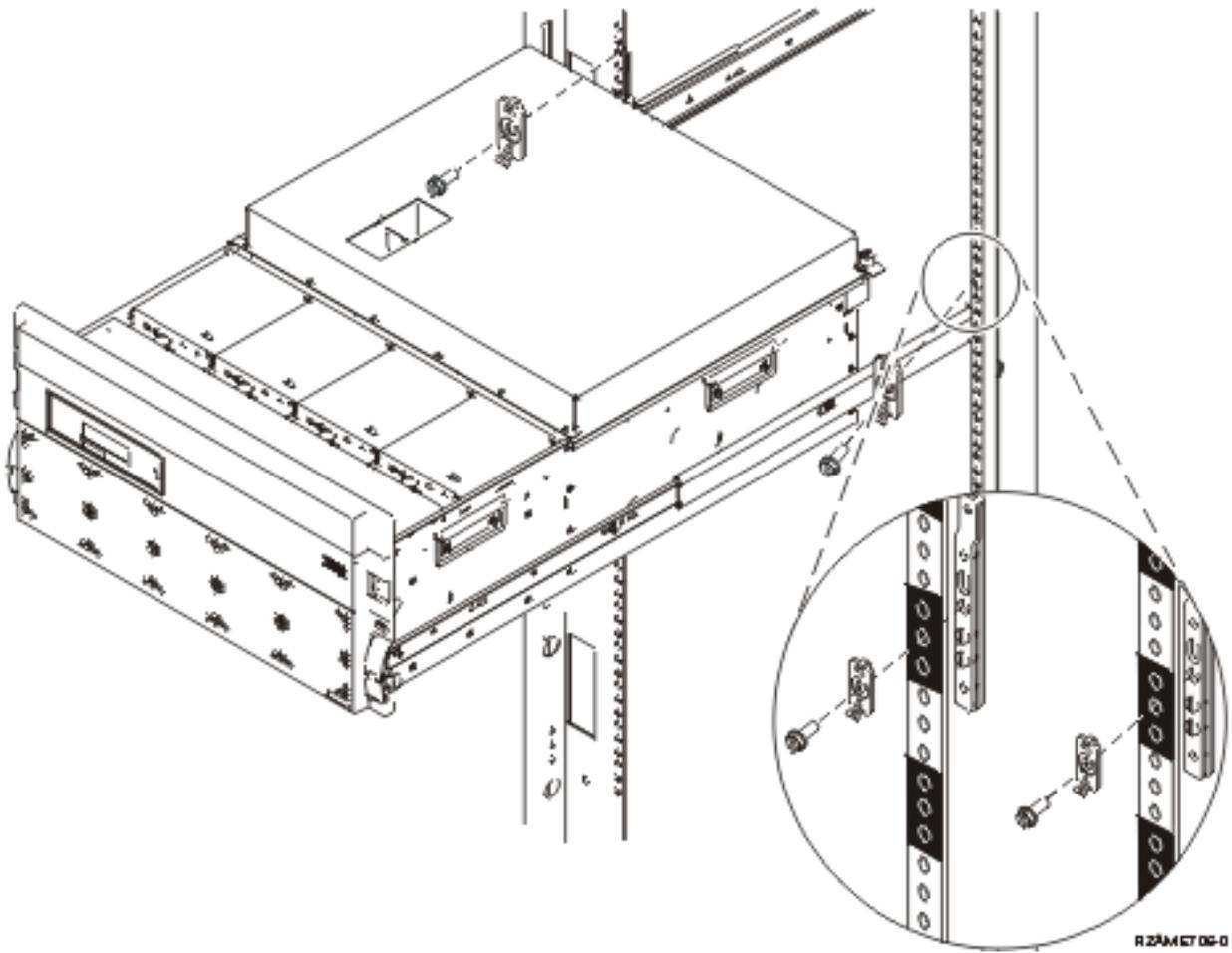
RZAMCT03-0

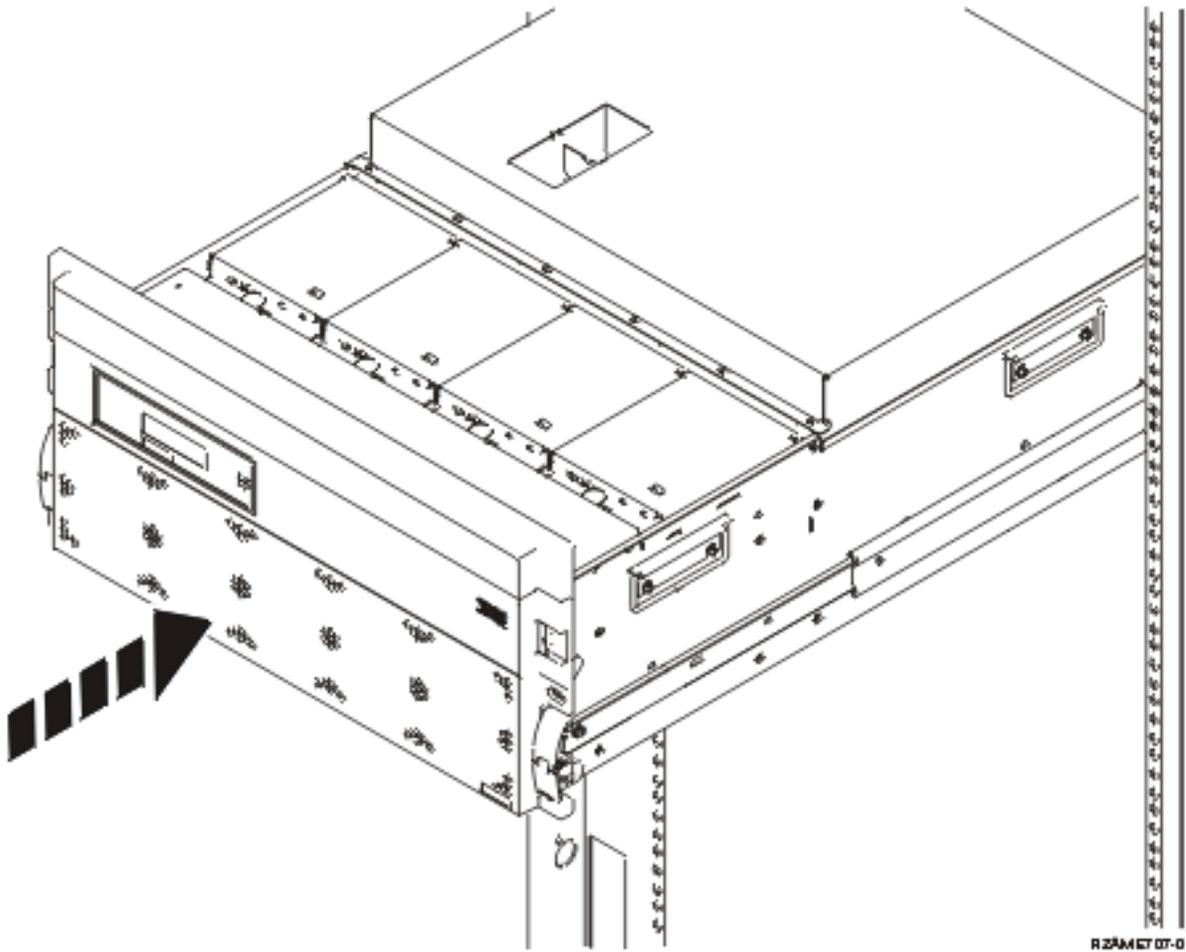




R2AMCT040







R24MCT07-0

1 ページの『第 1 章 拡張タワーをセットアップするための準備』に戻って、この手順書に従って続けてください。

付録 A. 背面カバーの取り外しまたは開き方

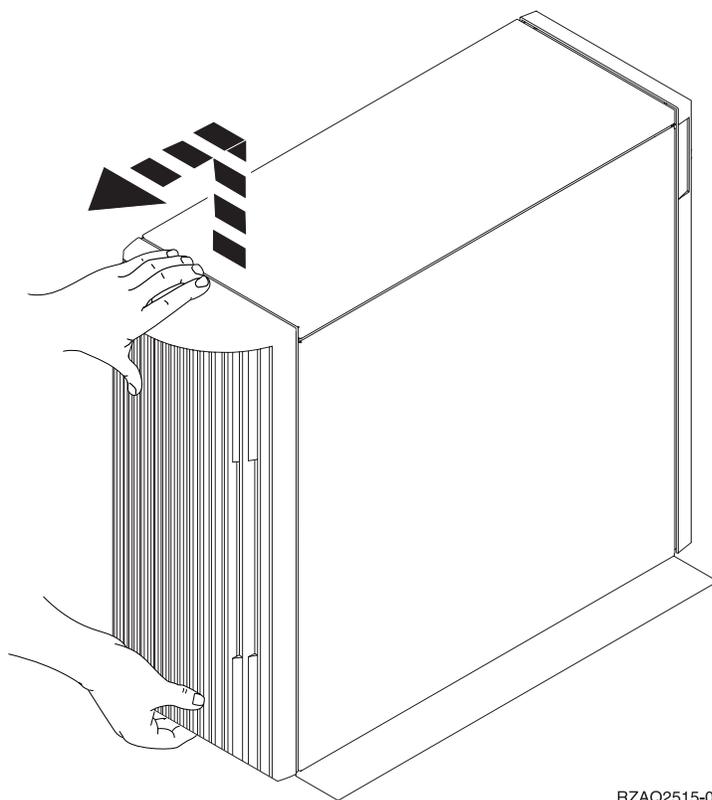
装置を配置する

- 『270、800、810、820、および 5075 の背面カバー』
- 32 ページの『825 の背面カバー』
- 33 ページの『830、5074、5094、5095 の背面カバー』
- 34 ページの『840、5079 および 5294 の背面カバー』
- 35 ページの『870 および 890 の背面カバー』

270、800、810、820、および 5075 の背面カバー

システム装置の背面カバーの上部の角を持って引き上げて手前に引き、カバーを取り外します。

注: 270 および 820 の背面カバーの外観は同じではありません。ただし、それらを開く手順は同じです。

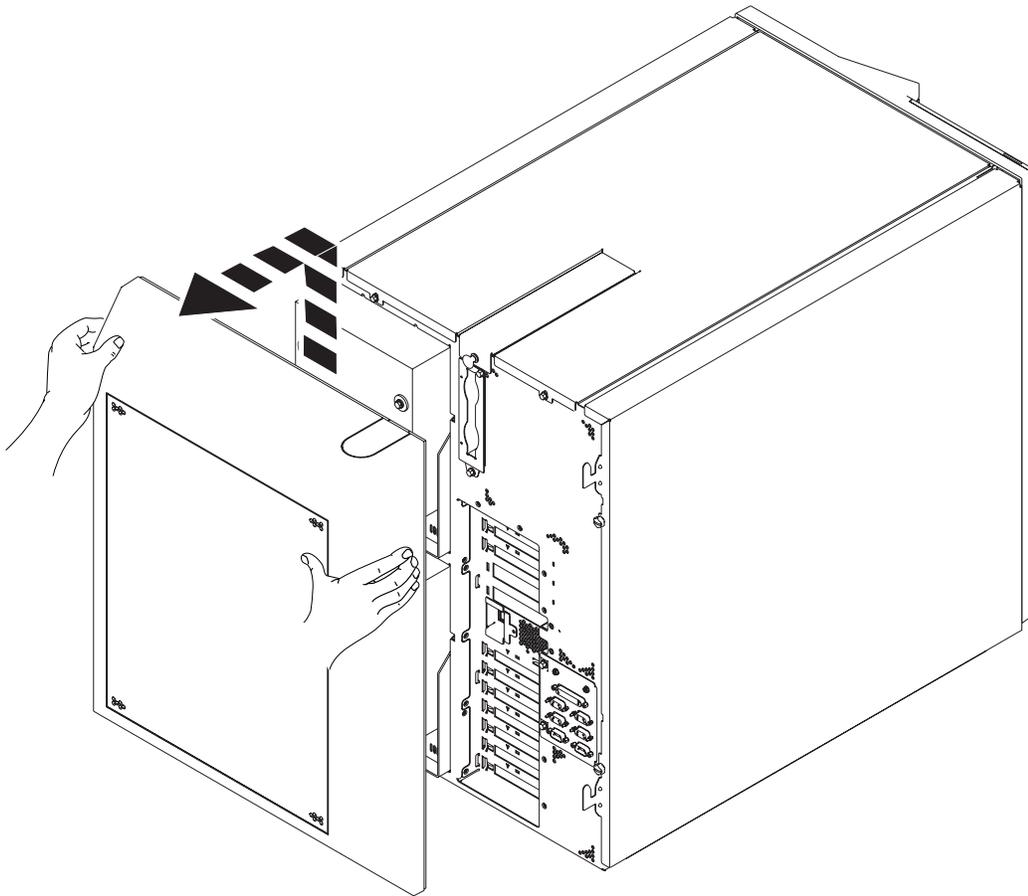


RZAQ2515-0

図 8. 5075 および 270 の背面カバーの取り外し

825 の背面カバー

システム装置の背面カバーの上部の角を持って引き上げて手前に引き、カバーを取り外します。



RZAME600-0

図 9. 825 の背面カバーの取り外し

830、5074、5094、5095 の背面カバー

1. **A** で示すラッチを使用して、拡張タワーの背面カバーを開きます。
2. 必要であれば、**B** で示すラッチを使用して、背面カバーを取り外します。

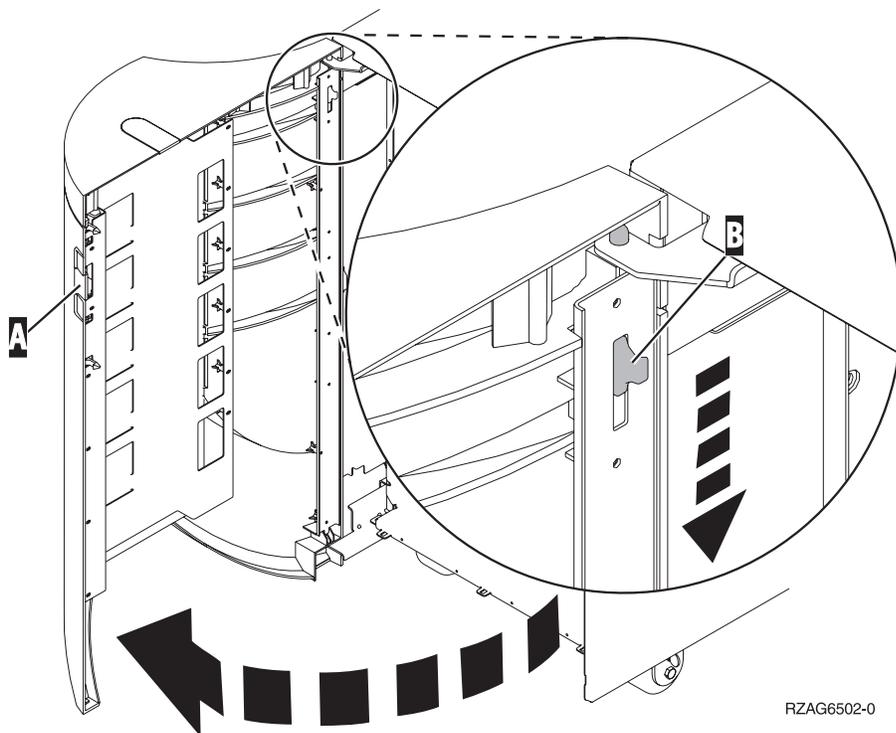
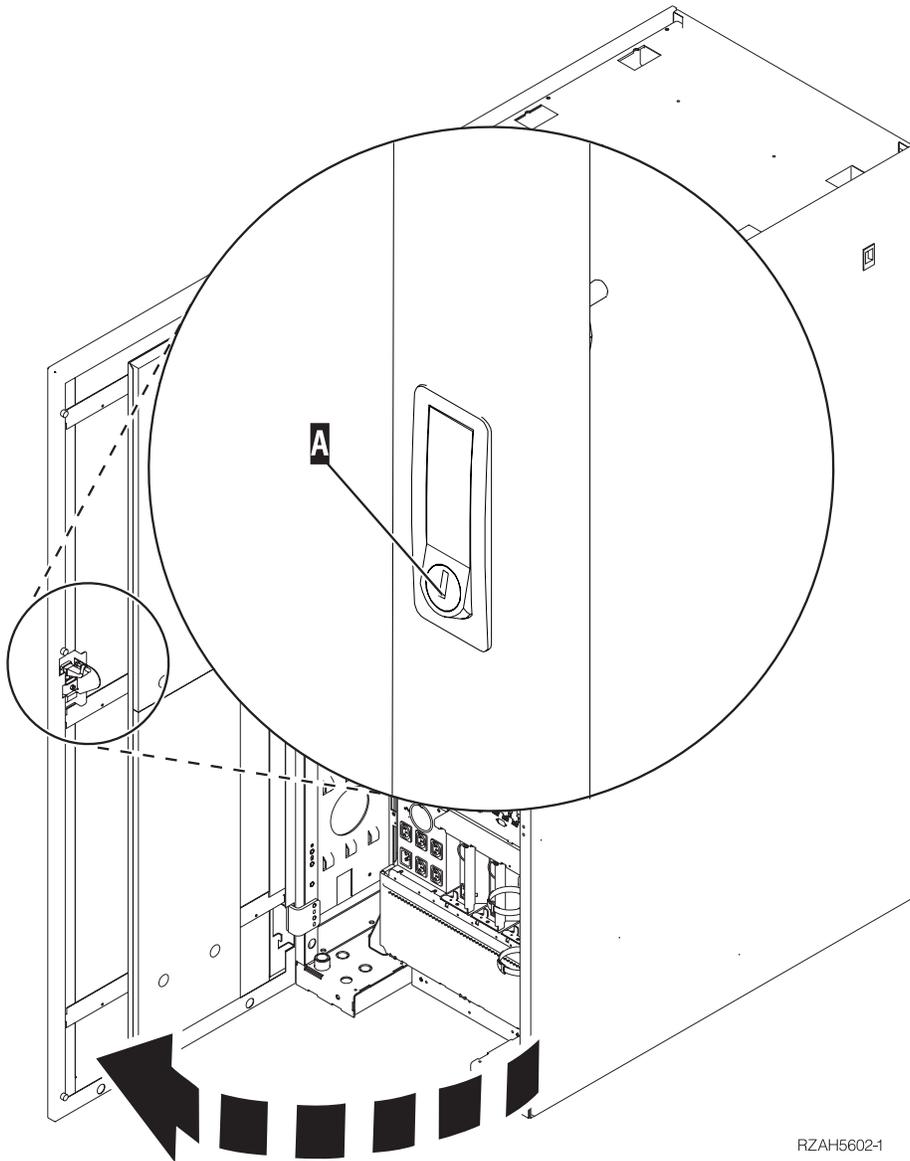


図 10. 830、5074 および 5094 の背面カバーの開き方

840、5079 および 5294 の背面カバー

840 または 5079 で背面カバーを開くときは、**A** のラッチを押します。

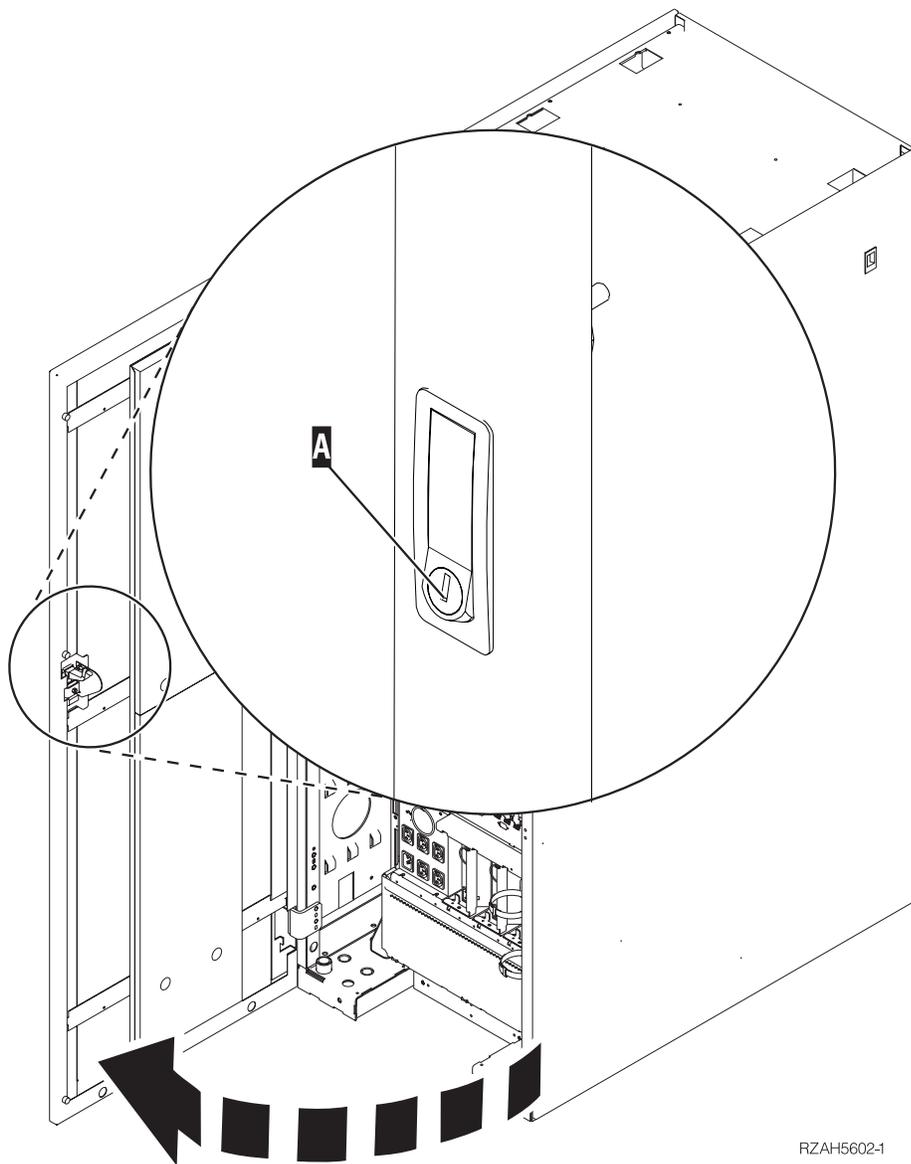


RZAH5602-1

図 11. 840、5079 または 5294 の背面カバーの開き方

870 および 890 の背面カバー

1. **A** で示すラッチを使用して、拡張タワーの背面カバーを開きます。

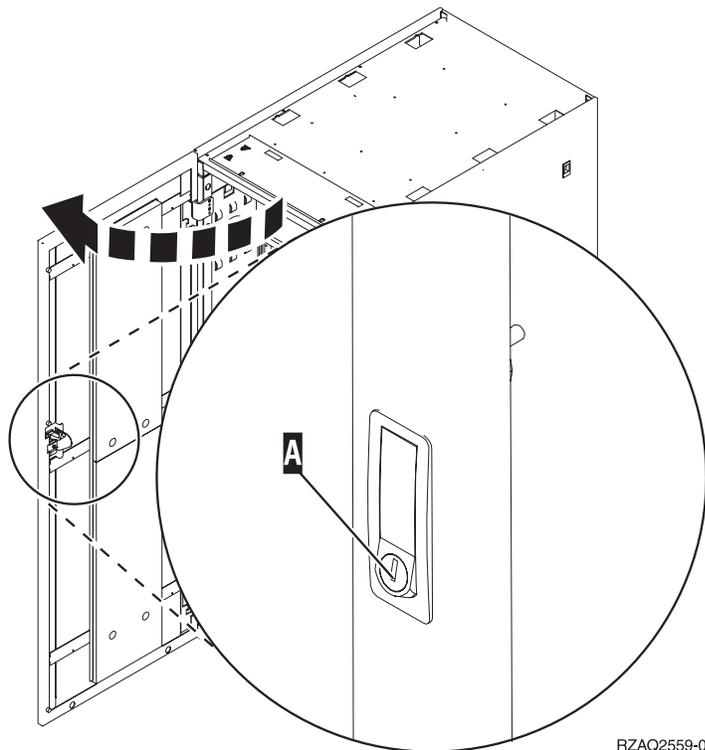


RZAH5602-1

図 12. 870 または 890 の背面カバーの開き方

ラック内の装置へのアクセス

1. ラックの背面に回り、ラッチ **A** を押してラックの背面カバーを開けます。



RZAQ2559-0

付録 B. コネクタの位置

装置およびコネクタ位置の指定をする

- 38 ページの『270、800、および 810 HSL コネクタの位置』
- 39 ページの『820 の HSL コネクタの位置』
- 40 ページの『825 の HSL コネクタの位置』
- 41 ページの『830 の HSL コネクタの位置』
- 42 ページの『840 の HSL コネクタの位置』
- 43 ページの『870 および 890 の HSL コネクタの位置』
- 44 ページの『5079 のコネクタの位置』
- 45 ページの『5074 のコネクタの位置』
- 46 ページの『5075 のコネクタの位置』
- 46 ページの『5078 および 0578 のコネクタの位置』
- 47 ページの『5088 および 0588 のコネクタの位置』
- 47 ページの『5094 のコネクタの位置』
- 48 ページの『5095 および 0595 のコネクタの位置』
- 49 ページの『5294 のコネクタの位置』
- 49 ページの『8079 のコネクタの位置』
- 49 ページの『8093 のコネクタの位置』
- 50 ページの『8094 のコネクタの位置』
- 50 ページの『9094 のコネクタの位置』

270、800、および 810 HSL コネクターの位置

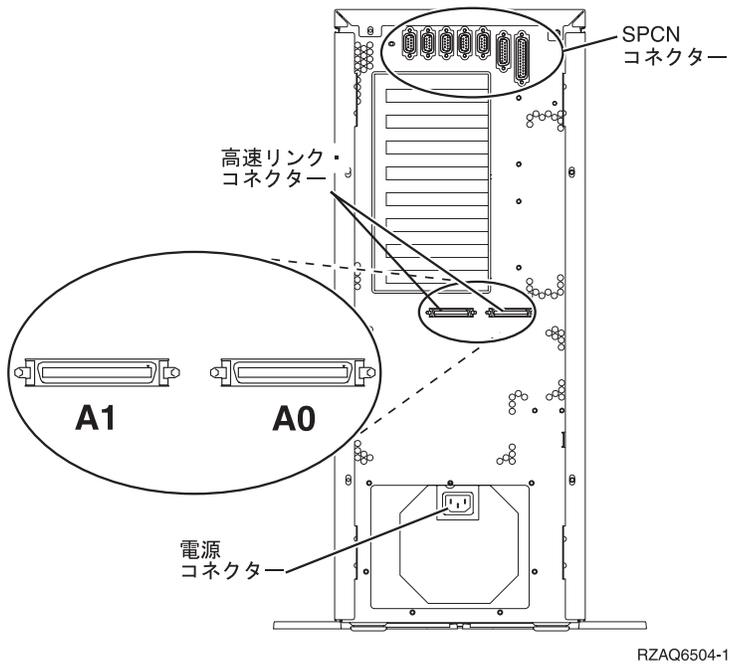


図 13. 270、800、および 810 HSL コネクターの位置

820 の HSL コネクタの位置

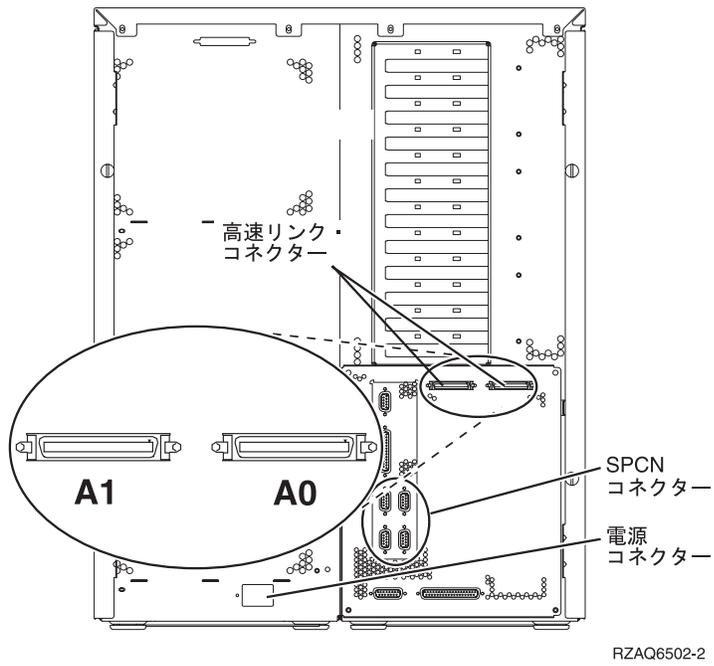


図 14. 820 の HSL コネクタの位置

825 の HSL コネクターの位置

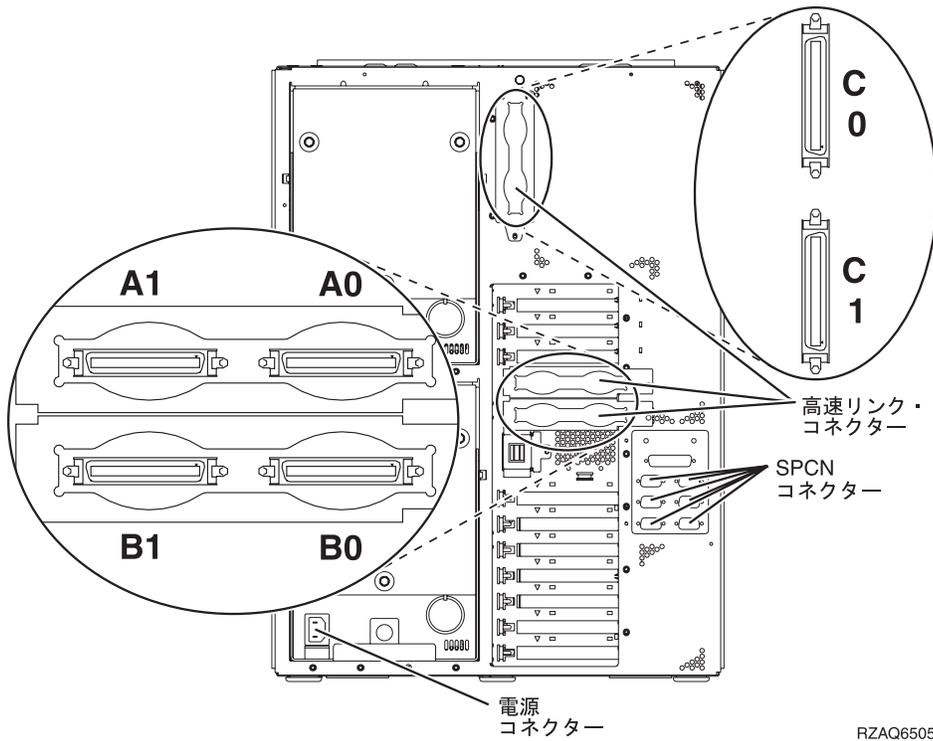


図 15. 825 の HSL コネクターの位置

830 の HSL コネクターの位置

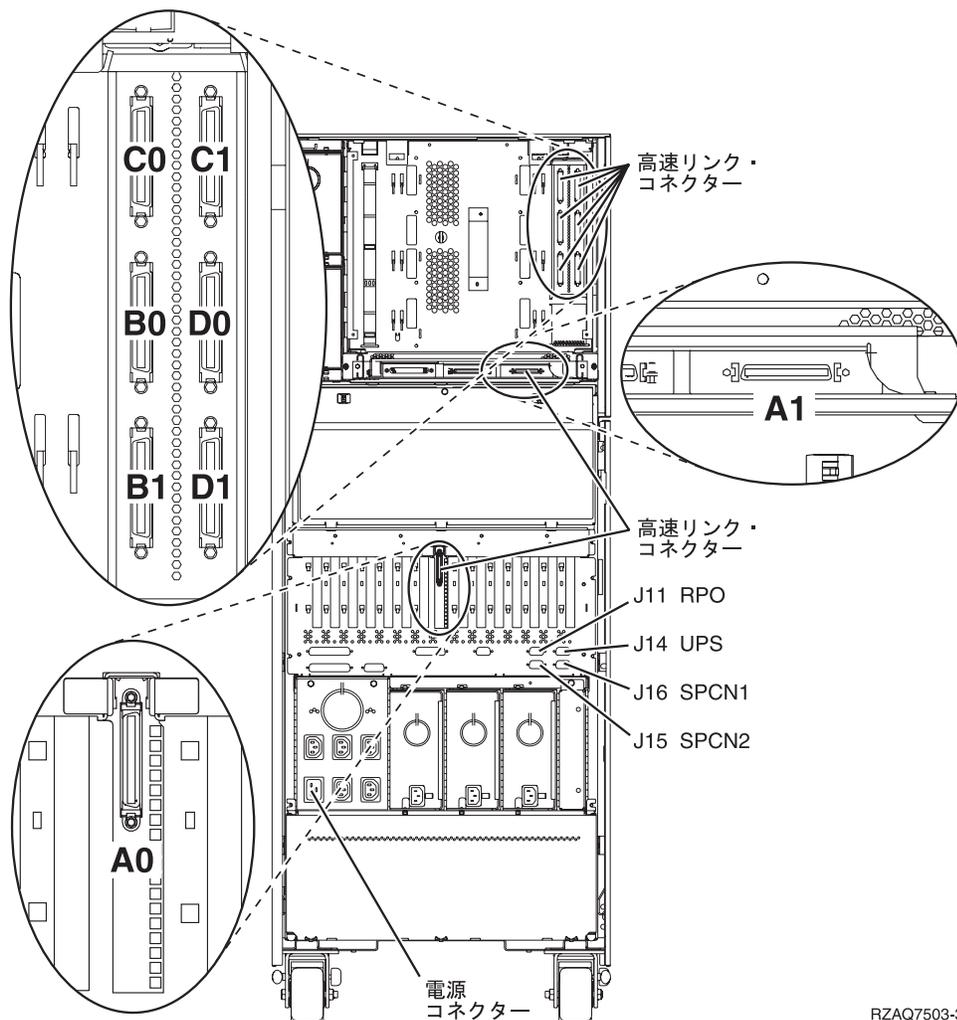
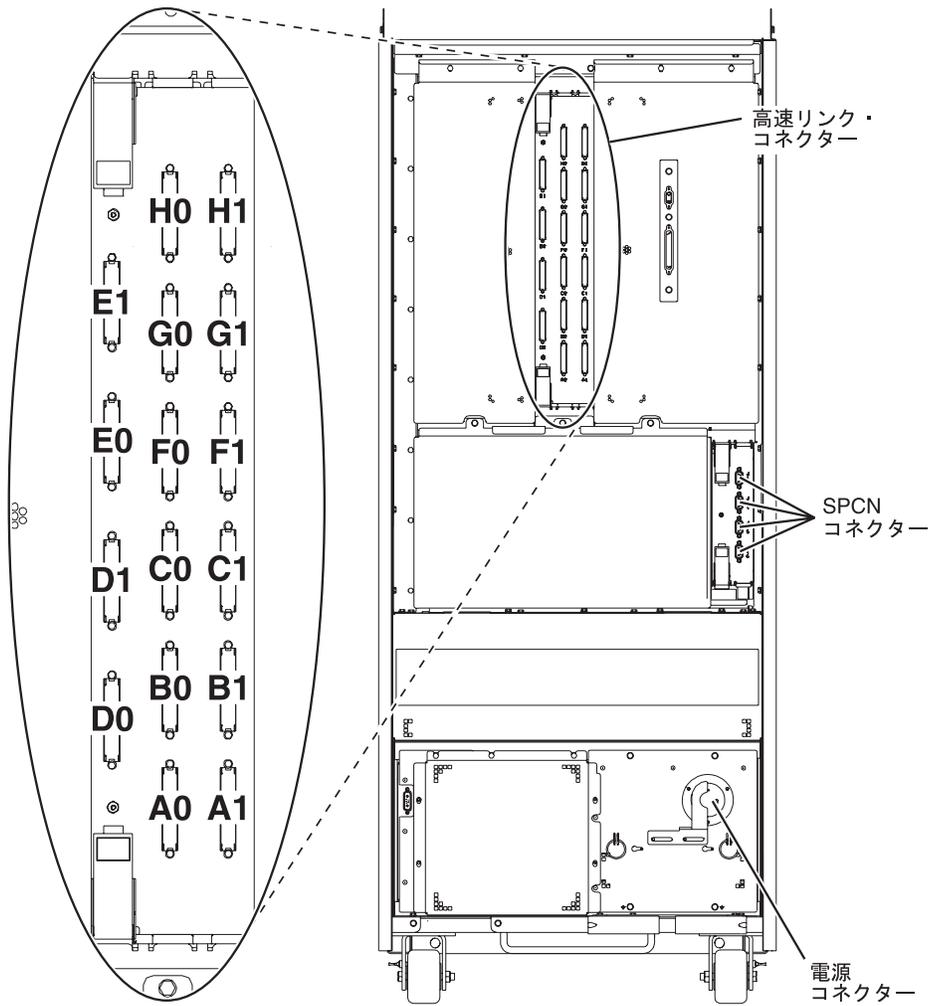


図 16. 830 の HSL コネクターの位置

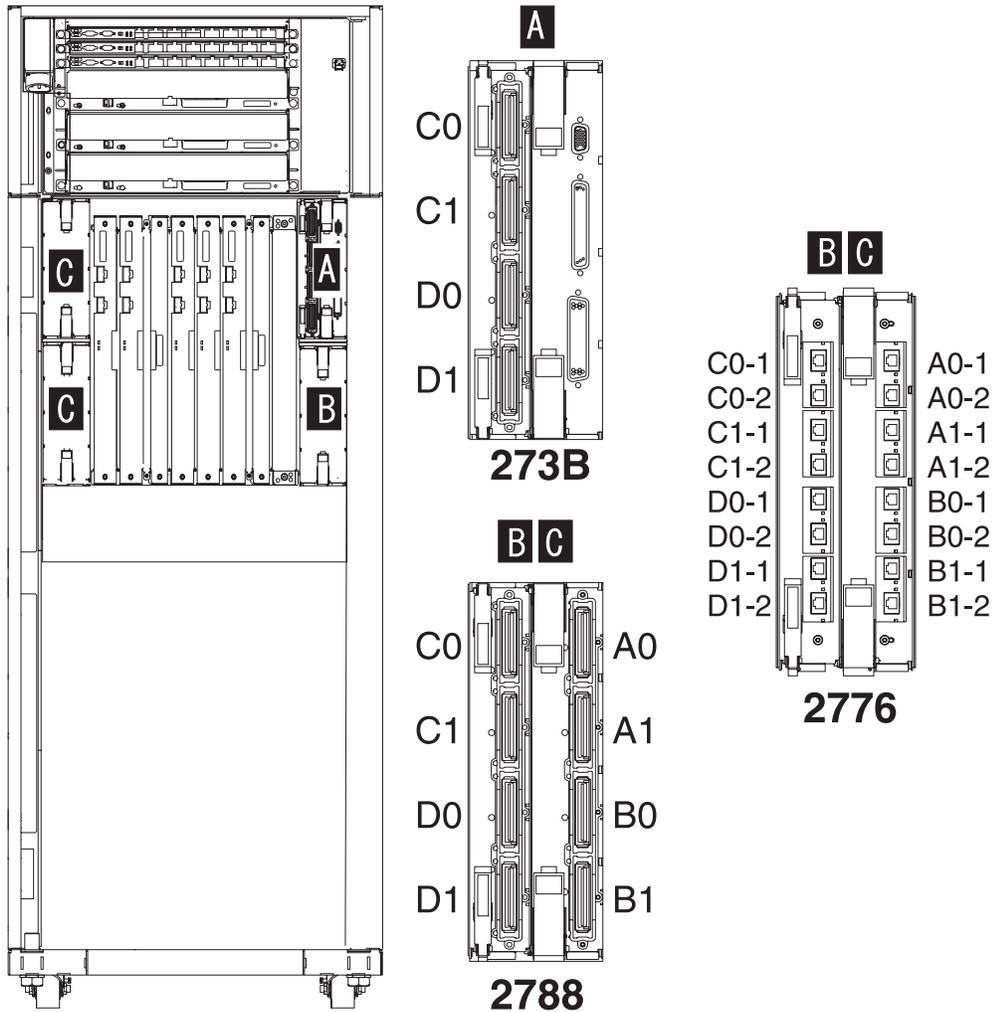
840 の HSL コネクターの位置



RZAQ7504-1

図 17. 840 の HSL コネクターの位置

870 および 890 の HSL コネクタの位置



注: 位置 **C** でのコネクタの位置は、180 度回転します。

RZAQ7513-1

図 18. 890 の HSL コネクタの位置

50 ページの図 27 も参照してください。

5079 のコネクタの位置

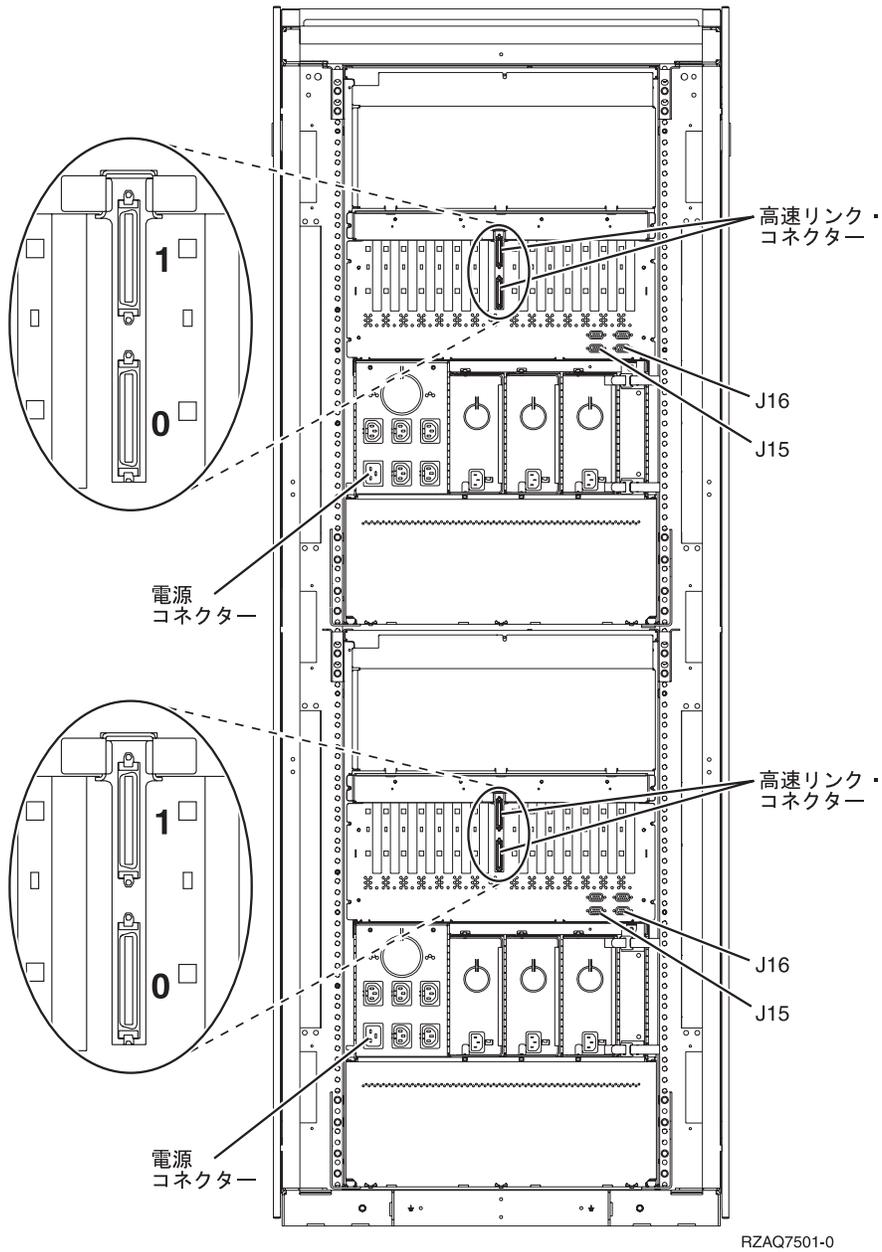


図 19. 5079 のコネクタの位置

5074 のコネクターの位置

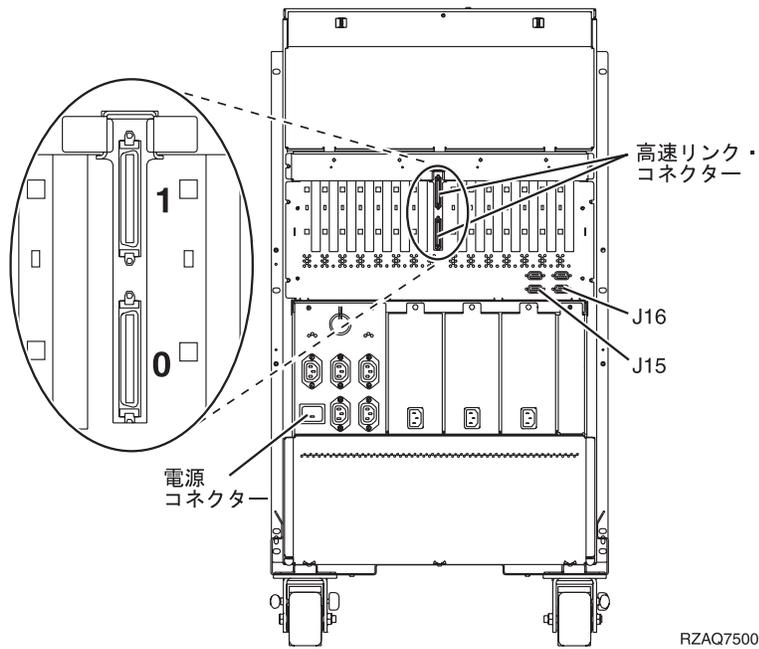


図 20. 5074 のコネクターの位置

5075 のコネクタの位置

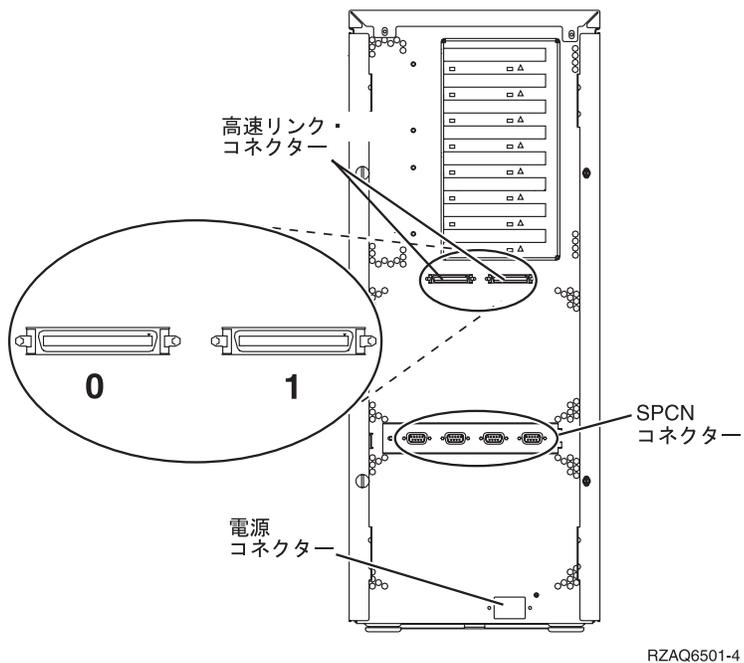


図 21. 5075 のコネクタの位置

5078 および 0578 のコネクタの位置

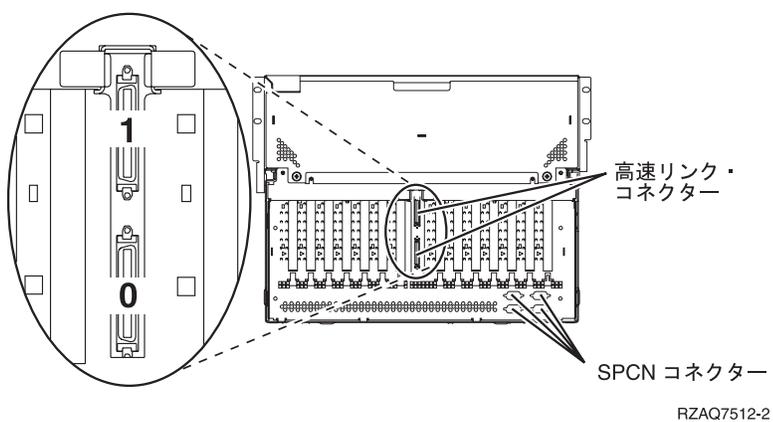


図 22. 5078 のコネクタの位置

5088 および 0588 のコネクタの位置

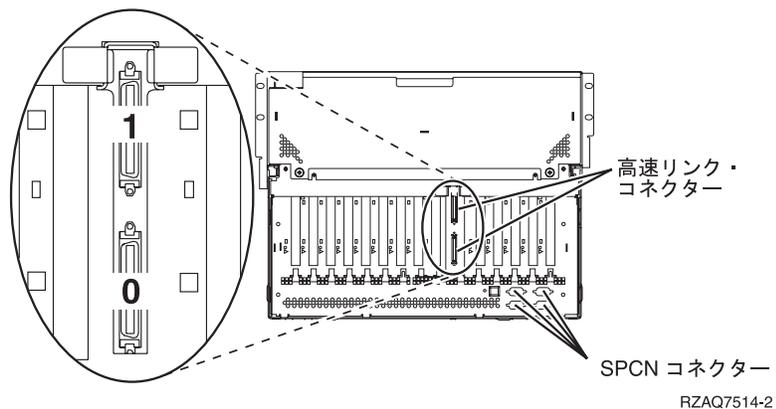


図 23. 5088 のコネクタの位置

5094 のコネクタの位置

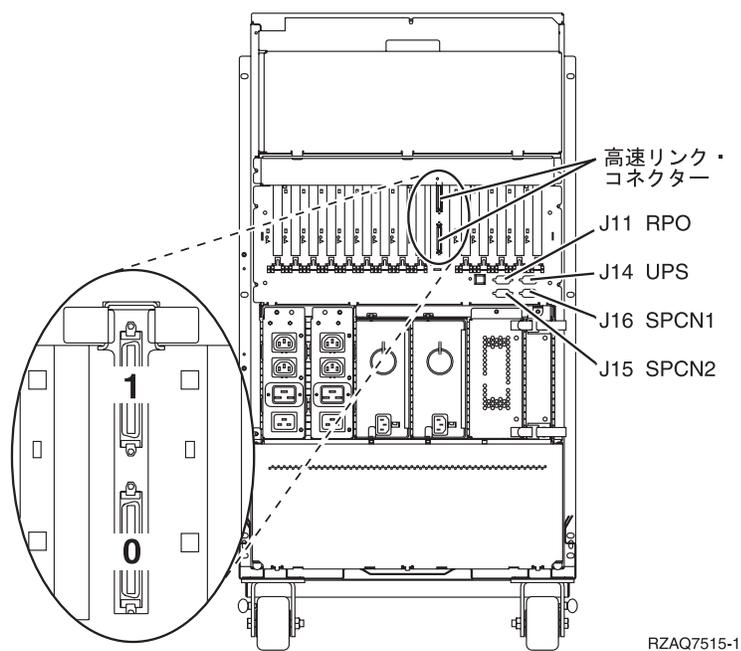
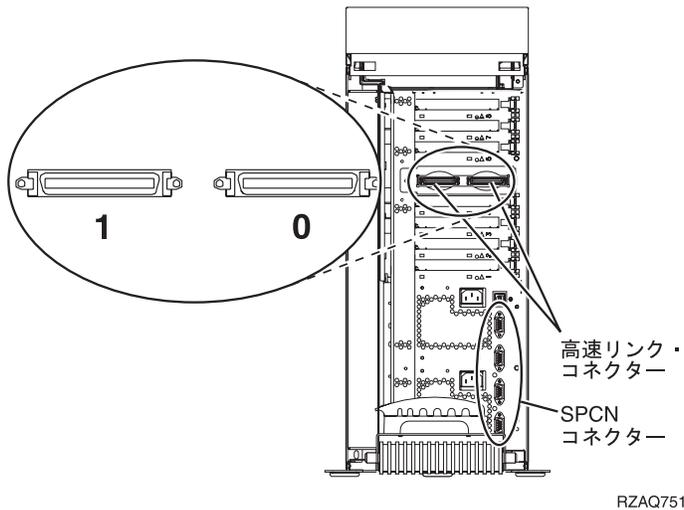


図 24. 5094 のコネクタの位置

5095 および 0595 のコネクターの位置



RZAQ7516-2

図 25. 5095 のコネクターの位置

5294 のコネクタの位置

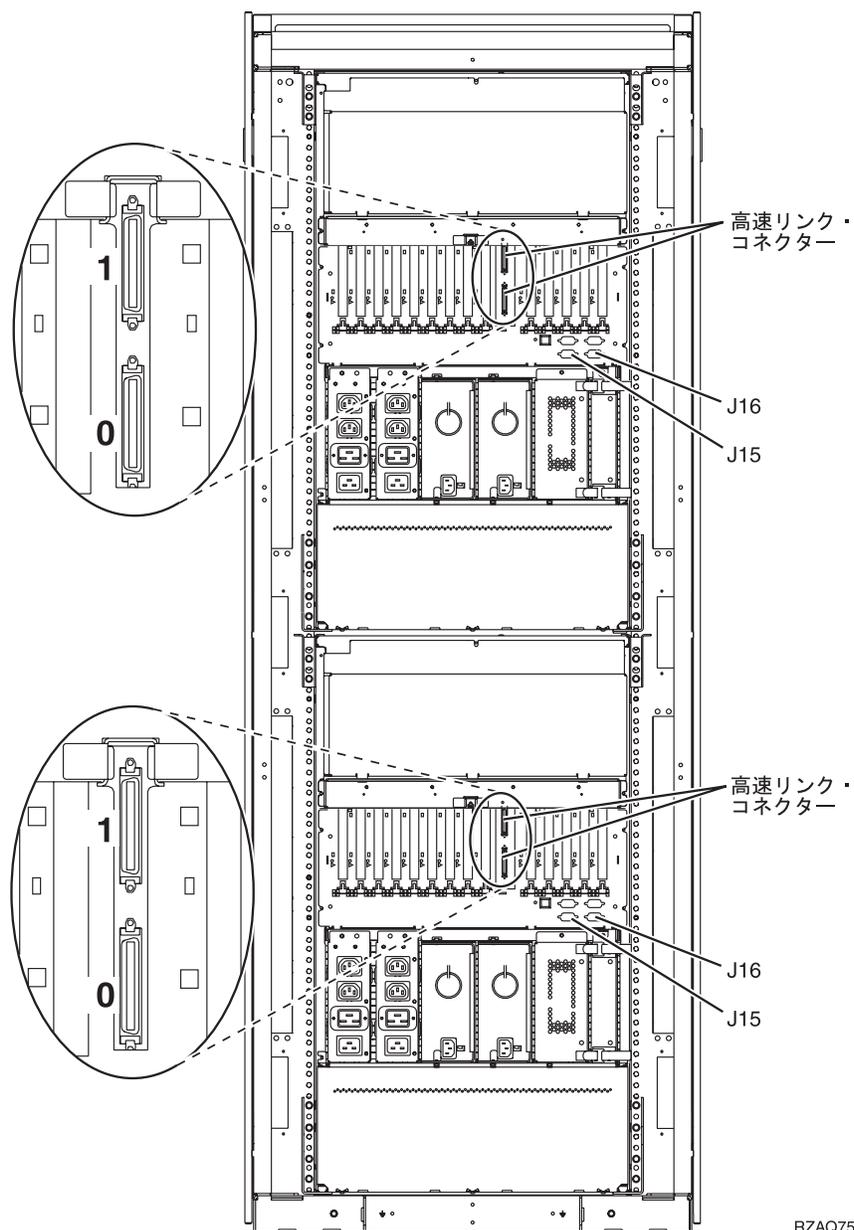


図 26. 5294 のコネクタ位置

8079 のコネクタの位置

下部装置については、840 システム装置、また上部装置については、5074 拡張タワーを参照してください。

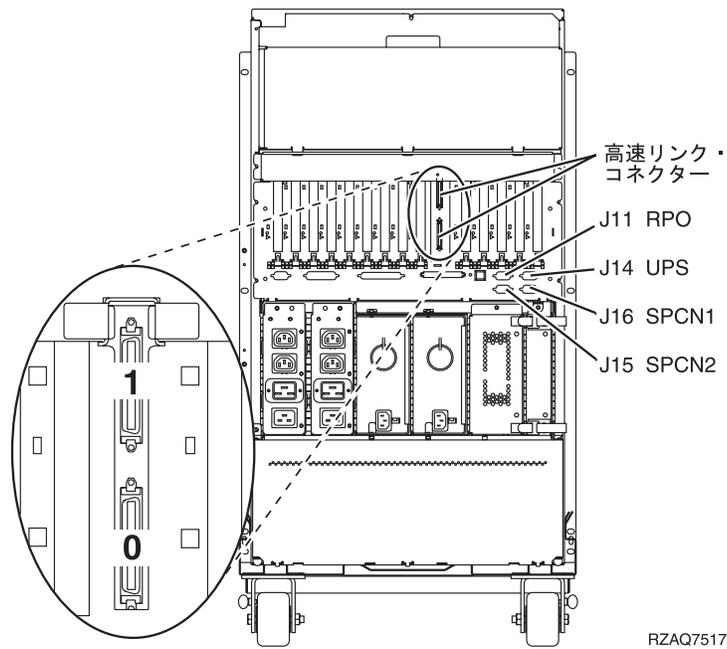
8093 のコネクタの位置

下部装置については、890 システム装置、上部装置については、5074 拡張タワーを参照してください。

8094 のコネクタの位置

下部装置については、890 システム装置、上部装置については、5094 拡張タワーを参照してください。

9094 のコネクタの位置



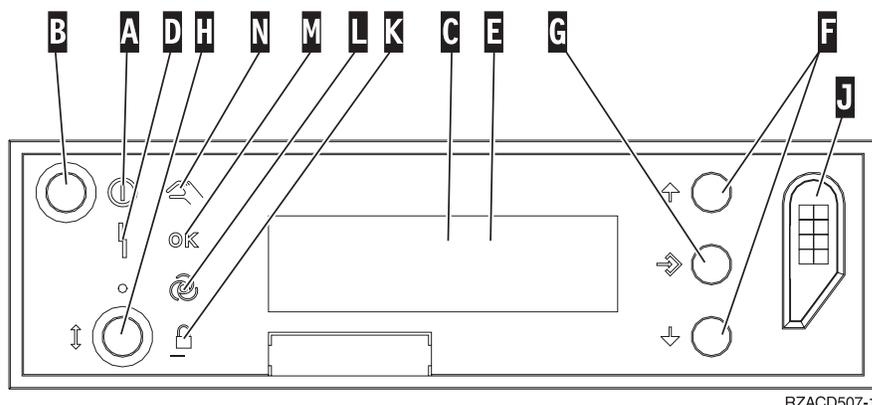
RZAQ7517-1

図 27. 9094 のコネクタの位置

付録 C. システム装置のコントロール・パネル

1. システム装置の前面に回ります。コントロール・パネルの扉を開きます。
2. **F** 「増分/減分」 ボタンおよび **G** 「機能開始」 プッシュボタンを使用できるようにする前に、**H** 「モード選択」 を押して、手動モード **N** を選択する必要があります。

コントロール・パネルではプッシュボタンを使用します。装置の制御パネルの扱い方に慣れてください。



RZACD507-1

- A** 「電源オン」 ライト
 - ライトが明滅しているときは、装置に電力が供給されていることを示しています。
 - ライトが点滅せずにオンになっているときは、装置が立ち上がり、稼働していることを示しています。
- B** 「電源」 プッシュボタン
- C** 「処理装置活動中」
- D** 「システム・アテンション」 ライト
- E** 「機能/データ」 表示パネル
- F** 「増分/減分」 ボタン
- G** 「機能開始」 プッシュボタン
- H** 「モード選択」 ボタン
- J** 電子キースティック・スロット
- K** 保護
- L** 自動
- M** 通常
- N** 手動

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032

東京都港区六本木 3-2-31

IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはいけません。

本書は、本書の中で示した特定機器の保守または修理に際しての、ハードウェア・サービス技術員による使用を目的して作成されたものです。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはいけません。

本書は、指定された機械の操作または計画の目的で、お客様の担当者が使用するものです。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM
iSeries

Lotus[®]、Freelance、および WordPro は、International Business Machines Corporation の商標です。

C-bus は、Corollary, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

ActionMedia、LANDesk、MMX[™]、Pentium[®]、および ProShare は、Intel[™] Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft[®]、Windows[®]、Windows NT[®]、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

SET[™] および SET ロゴは、SET Secure Electronic Transaction[™] LLC の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX[®] は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

電波障害に関する特記事項

情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

電波障害自主規制 届出装置の記述

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。



Printed in Japan

SA88-4001-02



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12